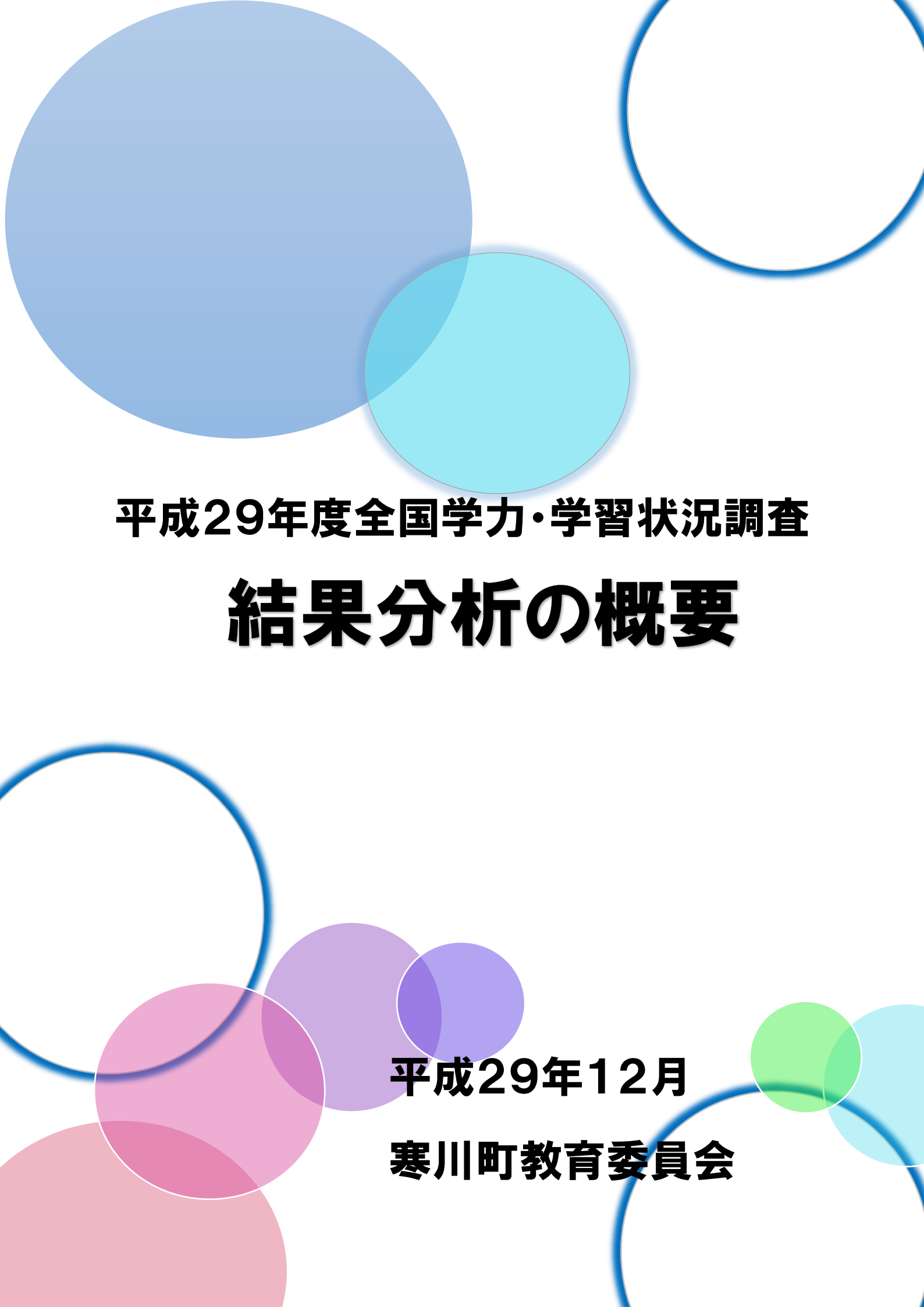




平成29年度全国学力・学習状況調査 結果分析の概要

平成29年12月

寒川町教育委員会

はじめに

全国学力・学習状況調査は平成 25 年度から、全国全ての小学校、中学校を対象に調査が行われてきました。

【調査の目的】¹

- 学力や学習状況を把握して、分析すること
- 教育施策の成果と課題を検証して、その改善を図ること
- 教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立すること
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てること

この 5 年間、調査を行う目的はずっと変わっていません。
これとともに、変わらないこととしては、

【調査結果の取り扱いに関する配慮事項】²

- 本調査の目的や、調査結果が学力の特定の一部であること
- 序列化につながらない取組が必要であること

この部分について、平成 29 年度の全国学力・学習状況調査に関する実施要領では、

【調査結果の取り扱いに関する配慮事項】³

- 調査により測定できるのは学力の特定の一部であること
- 学校における教育活動の一側面であること
- 序列化や過度な競争が生じないようにするなど教育上の効果や影響等に十分配慮すること

この調査で分かることは学力の特定の一部であること、この調査結果を受けて、序列化や過度の競争が生まれないよう配慮することが求められています。

○ 「全国学力・学習状況調査に関する実施要領」については、以後「実施要領」とする。

1【調査の目的】義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。また、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。（平成 25 年度～平成 29 年度 実施要領より）

2【調査結果の取扱いに関する配慮事項】調査結果の公表にあたっては、本調査の目的や、調査結果が学力の特定の一部であることなどを明示するとともに、序列化につながらない取組が必要。（平成 25 年度 実施要領より）

寒川町教育委員会ではこのことをしっかりと受け止め、全国学力・学習状況調査を次のように取り扱い、寒川町の教育のより一層の発展を目指していきます。

【寒川町教育委員会として】^{3・4}

- 序列化や過度な競争が生じないように配慮します。
(調査結果については、単に平均正答数や平均正答率などの数値のみの公表は行いません)
- 学力の特定的一部分、教育活動の一側面であることに十分に留意します。
(他の市町村や過去の結果との数値のみの比較に終わらず、平均正答数や平均正答率の現状についてしっかりと受け止めていきます。)
- 調査結果について分析を行い、その分析結果を併せて公表します。
- 調査結果の分析を踏まえた今後の改善方策を示していきます。
- 調査結果の分析内容や改善方法については、寒川町ホームページに掲載するだけでなく、家庭版学校教育だより等で家庭への発信をし、家庭とともに学習について考えていきます。

また、次のことを踏まえて分析をしていきます。

【分析をする上での留意点】

- 学校での教育実践の成果と課題について検証していきます。
- 「成果」については、「これまでに取り組んで『強み』になったこと」と定義します。
- 「課題」については、「これまでも取り組んできたが、より重点的に今後取り組みたいこと」と定義します。
- 寒川町の児童・生徒やその保護者の取り組み、また、教職員の教育実践の方向性について、新学習指導要領と関連付けていきます。

3【調査結果の取扱いに関する配慮事項】「調査結果については、調査の目的を達成するため、自らの教育及び教育施策の改善、各児童生徒の全般的な学習状況の改善等につなげることが重要であることに留意し、適切に取り扱うものとする。調査結果の公表に関しては、教育委員会や学校が、保護者や地域住民に対して説明責任を果たすことが重要である一方、調査により測定できるのは学力の特定的一部分であること、学校における教育活動の一側面であることなどを踏まえるとともに、序列化や過度な競争が生じないようにするなど教育上の効果や影響等に十分配慮することが重要である。」「調査結果の公表を行う教育委員会又は学校においては、単に平均正答数や平均正答率などの数値のみの公表は行わず、調査結果について分析を行い、その分析結果を併せて公表すること。さらに、調査結果の分析を踏まえた今後の改善方策も速やかに示すこと。」(平成 29 年度実施要領より)

4【調査結果の活用】(ア)各教育委員会、学校等においては、多面的な分析を行い、自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握・検証し、保護者や地域住民の理解と協力のもとに適切に連携を図りながら、教育及び教育施策の改善に取り組むこと。(ウ)各教育委員会においては、調査結果を踏まえ、それぞれの役割と責任に応じて、学校における取組等に対して必要な支援等を行うなど、域内の教育及び教育施策の改善に向けた取組を進めること。(平成 29 年度実施要領より)

目 次

はじめに

1. 求められている授業の形

- 授業はどのような形で行われているのか … 1
- 小学校の学習スタイル … 1
 - 小学校6年生の質問紙から
- 中学校の学習スタイル … 3
 - 中学校3年生の質問紙から

2. 国語の結果分析

- 国語について … 5
- 「読むこと」「書くこと」について … 7

3. 算数・数学の結果分析

- 算数・数学について … 11
- 「数と計算」「数と式」について … 13

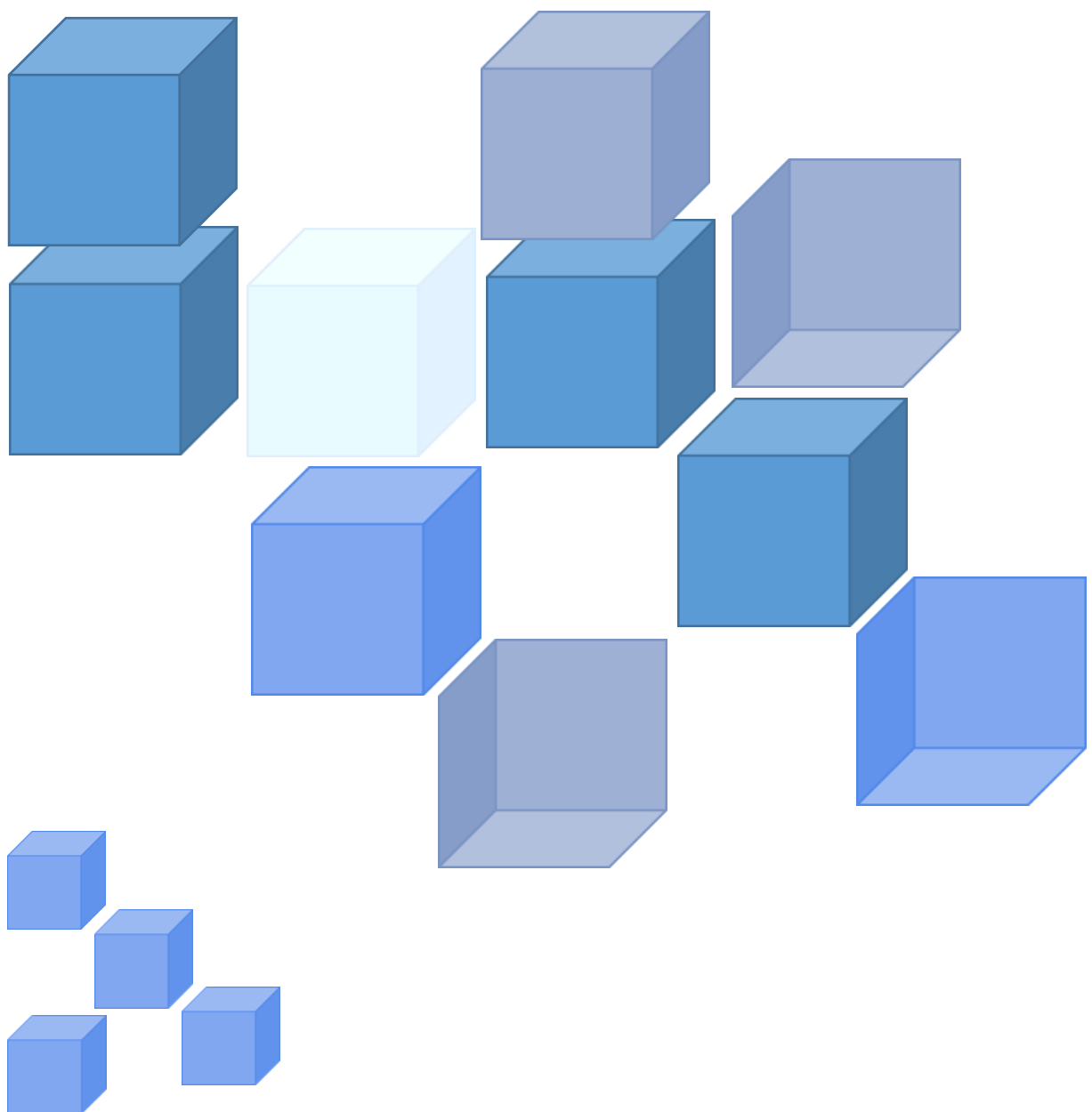
4. 今後に向けて

- 平成28年度の分析から … 16
- 学習の土台について … 16
 - 家庭生活・学校生活
- 学習の積み重ねについて … 19
 - 家庭生活・学校生活
- 今後の取り組みについて … 22
- 家庭での学習について … 23
 - 基礎・基本の「習熟」に向けて
- 家庭での取り組みについて … 25
 - どのように学習をしたらよいか
- 学校での取り組みについて … 28
 - 今までも、これからも必要なこと

資料

- 平成29年度全国学力・学習状況調査 調査の概要
- 平成29年度全国学力・学習状況調査 調査結果(グラフ)

1. 求められている授業の形



授業はどのような形で行われているのか

国語や算数・数学の結果についてお伝えする前に、寒川町の児童・生徒がどのように学習に向き合っているのか見ていきます。

学校の授業は、学習指導要領⁵に則って行われています。平成29年3月に新しい学習指導要領により、これからの教育の在り方が示されました。

ここでは、これから必要とされる力⁶を身につけていくために、どのような学習が求められているか⁷、児童・生徒質問紙から授業でどのような活動が行われているかを読み取っていきます。近年3ヵ年の結果を載せていますが、質問によって統計を取り始めた時期が異なるため、全てが3年分ではありません。

小学校の学習スタイル（小学校6年生の質問紙から）

（表の中の数字は%を表します。）

(55) 5年生までに受けた授業では、先生から示される課題や、学級やグループの中で、自分たちで立てた課題に対して、自ら考え、自分から取り組んでいたと思いますか		当てはまる
	平成29年度	70.1
	平成28年度	66.9
(56) 5年生までに受けた授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていたと思いますか		当てはまる
	平成29年度	76.5
	平成28年度	80.0
(57) 5年生までに受けた授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていたと思いますか		当てはまる
	平成29年度	81.5
	平成28年度	78.6
(58) 5年生までに受けた授業では、学級やグループの中で自分たちで課題を立てて、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して、発表するなどの学習活動に取り組んでいたと思いますか		当てはまる
	平成29年度	65.3
	平成28年度	66.9
(59) 5年生までに受けた授業で、学級の友達との間で話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、自分の考えをしっかりと伝えていたと思いますか		当てはまる
	平成29年度	72.6
	平成28年度	67.7
(60) 5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたと思いますか		当てはまる
	平成29年度	56.1
	平成28年度	55.2

⁵【学習指導要領】文部科学省では全国どの地域でも一定水準の教育を受けられるよう教育課程（カリキュラム）を編成する基準（学習内容や授業時数）を設けており、これを「学習指導要領」といいます。その中には子供たちにこれから必要な力の育成に関することが盛り込まれており、新学習指導要領は平成30年度からの移行期間を経て、小学校では平成32年度から、中学校では平成33年度から完全実施されます。

これらの質問から分かるように、授業では単に「教師が話をする」「児童が問題を解く」というような授業が展開されているわけではないことが読み取れます。提示された課題について、自分で考え、友達と話し合い、発表し、みんなで共有をしていく、そのような授業が行われています。

小学校では、話し合い活動が活発になっている様子が分かりますが、自分の考えをうまく伝えることに難しさを感じている児童が半分程度いることが分かります。

このことから次のことが課題としてあげられます。

課題

これまでにも取り組んできたが、より重点的に今後取り組みたいこと

「何について」「何を使って」「どのように表現するか」

自分の考えをどのように表現していくのか

6【これから子供たちが活躍する未来で一人一人に求められること】解き方があらかじめ定まった問題を効率的に解いたり、定められた手順を効率的にこなしたりすることにとどまらず、直面する様々な変化を柔軟に受け止め、感性を豊かに働かせながら、どのような未来を創っていくのか、どのように社会や人生をよりよいものにしていくのかを考え、主体的に学び続けて自ら能力を引き出し、自分なりに試行錯誤したり、多様な他者と協働したりして、新たな価値を生み出していくことであると考えられる。（「次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ」より）

7【新学習指導要領との関連：学校の授業で取り組んでいくこと】単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら、児童の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行うこと。特に、各教科等において身に付けた知識及び技能を活用したり、思考力、判断力、表現力等や学びに向かう力、人間性等を発揮させたりして、学習の対象となる物事を捉え思考することにより、各教科等の特質に応じた物事を捉える視点や考え方（以下「見方・考え方」という。）が鍛えられていくことに留意し、児童が各教科等の特質に応じた見方・考え方を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう過程を重視した学習の充実を図ること。（新学習指導要領総則第3-1(1)より）

※【H.29 小学校児童質問紙（55）～（60）の国・県の結果】

（55）当てはまる…国：77.9 県：77.4 （56）当てはまる…国：84.7 県：82.9

（57）当てはまる…国：84.5 県：81.5 （58）当てはまる…国：75.1 県：73.9

（59）当てはまる…国：76.1 県：73.2 （60）当てはまる…国：64.9 県：65.6

中学校の学習スタイル（中学校3年生の質問紙から）

（表の中の数字は%を表します。）

（５７）１，２年生のときに受けた授業では、先生から示される課題や、学級やグループの中で、自分たちで立てた課題に対して、自ら考え、自分から取り組んでいたと思いますか		当てはまる
	H29年度	75.1
	H28年度	66.9
（５８）１，２年生のときに受けた授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていたと思いますか		当てはまる
	H29年度	86.1
	H28年度	74.7
（５９）１，２年生のときに受けた授業では、生徒の間で話し合う活動をよく行っていたと思いますか		当てはまる
	H29年度	86.8
	H28年度	67.2
（６０）１，２年生のときに受けた授業では、学級やグループの中で自分たちで課題を立てて、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して、発表するなどの学習活動に取り組んでいたと思いますか		当てはまる
	H29年度	74.1
	H28年度	62.3
（６１）１，２年生のときに受けた授業で、生徒の間で話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、自分の考えをしっかりと伝えていたと思いますか		当てはまる
	H29年度	79.4
	H28年度	68.9
（６２）１，２年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたと思いますか		当てはまる
	H29年度	69.4
	H28年度	54.1

中学校では質問の内容が小学生より難しくなっていますが、提示された課題について、自分で考え、友達と話し合い、発表し、みんなで共有していく、そのような授業展開は小学校と同じです。

中学校では、話し合い活動がより一層活発になっており、日常的に「聴く」「伝える」ということができるような学習環境になってきています。

グラフから分かりますが、話し合いが急に伸びたことから読み取ると、教師や生徒一人ひとりが話し合うことを意識しているといえます。

今後気をつけていきたいことは、「何のための話し合いか」ということを生徒にしっかりと伝えることです。これにより、より質の高い授業につながります。

課題

これまでにも取り組んできたが、より重点的に今後取り組みたいこと

「何のための話し合い活動であるか」を明確に

現在行われている教育については、現行の学習指導要領に則って行われており、「言語活動の充実」が大きな柱として位置づけられていることから、質問紙調査に見られる学習のスタイルが展開されています。

また、子供たちの現状と課題から、予測困難な時代に、一人一人が未来の作り手となるよう、教育の在り方について検討され、学習指導要領は改訂されます。この先必要な力を子供たちにつけさせていく上で、「主体的・対話的で深い学び⁸」が新学習指導要領の柱の一つとなっています。

これまでの寒川町の教育実践は日本の教育施策と少しもずれることなく行われ、また、これからの教育の方向と同じであることは、学習のスタイルの分析から分かります。これまでの取り組み⁹は、児童・生徒の努力や保護者の関わり、地域の支え、授業改善の姿勢によって着実に積み上げられています。また、その一步一步が未来つながっていることを認識し、上を向いて実践を重ねていくことが大切です。

この先の社会で求められる学力については、小学校、中学校に共通しています。これらについて、全国学力・学習状況調査の結果を学力の一部としてしっかりと受け止めて、学校、地域、家庭が手を取り合い、子供たちに必要な生きる力の育成に取り組んでいきたいと考えています。

8【新学習指導要領との関連：主体的・対話的で深い学び】「主体的・対話的で深い学び」の実現とは、以下の視点に立った授業改善を行うことで、学校教育における質の高い学びを実現し、学習内容を深く理解し、資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的（アクティブ）に学び続けるようにすることである。子供自身が興味を持って積極的に取り組むとともに、学習活動を自ら振り返り意味付けたり、身に付いた資質・能力を自覚したり、共有したりすることが重要である。身に付けた知識や技能を定着させるとともに、物事の多面的で深い理解に至るためには、多様な表現を通じて、教職員と子供や、子供同士が対話し、それによって思考を広げ深めていくことが求められる。各教科等で習得した概念（知識）や考え方を実際に活用して、問題解決等に向けた探究を行う中で、資質・能力の三つの柱に示す力が総合的に活用・発揮される場面が設定されることが重要である。教員はの中で、教える場面と、子供たちに思考・判断・表現させる場면을効果的に設計し関連させながら指導していくことが求められる。（「次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ」より）

※次頁は新学習指導要領の方向性および目指す資質・能力

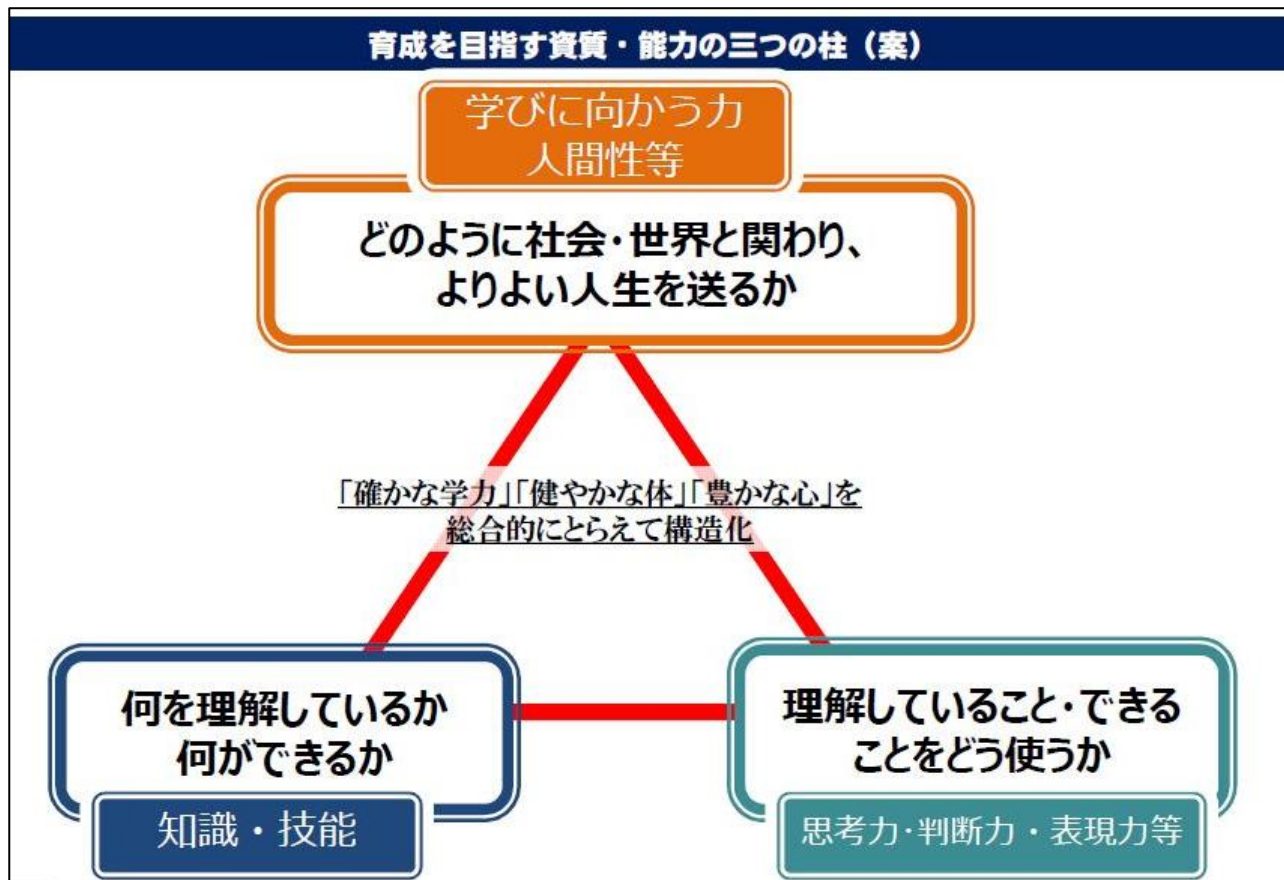
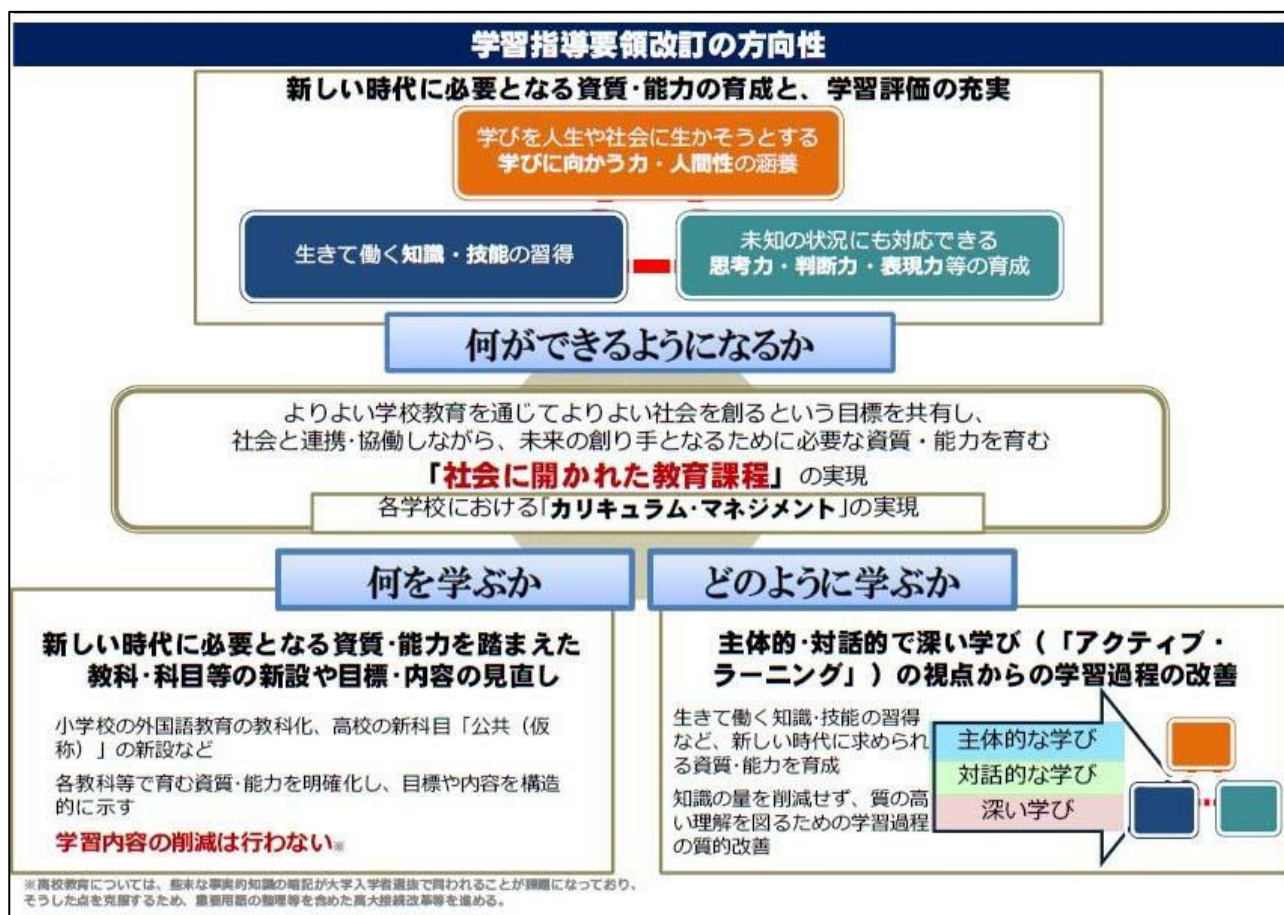
9 これまでの取り組みの詳細については、寒川町のホームページにて公開しています。

（平成 28 年度全国・学力状況調査の結果及び結果分析の概要について 6.「成果と課題」：下記 QR コード）

※【H.29 中学校生徒質問紙（57）～（62）の国・県の結果】

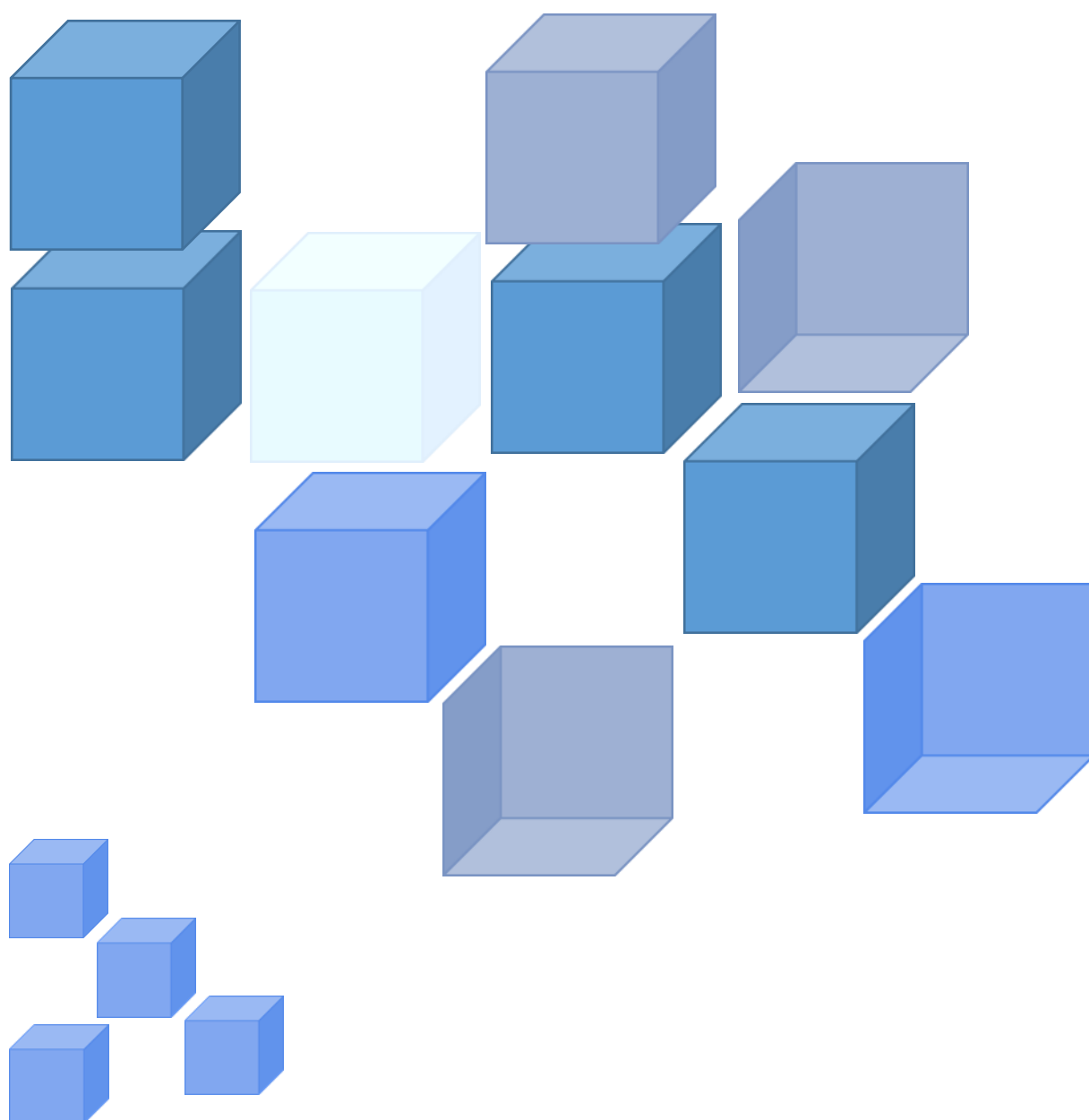
（57）当てはまる…国：74.9	県：72.9	（58）当てはまる…国：84.4	県：82.1
（59）当てはまる…国：70.4	県：70.6	（60）当てはまる…国：71.3	県：69.9
（61）当てはまる…国：73.5	県：71.2	（62）当てはまる…国：57.9	県：59.7





（図については「次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ」より抜粋）

2. 国語の結果分析



国語について

国語については、小学校、中学校とも「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質」に関する事項（表内では「伝統的な言語文化と国語の特質」と略）の4つの領域に分かれています。

全体的な傾向としては、次のとおりです。

小学校〔国語A：主として知識〕

分類	区分	平成27年度		平成28年度		平成29年度	
		平均正答率	全国との差	平均正答率	全国との差	平均正答率	全国との差
全体		58.5	-11.5	66.4	-6.5	67※	-7.8
学習指導要領の 領域等	話すこと・聞くこと	39.9	-13.1	75.5	-3.7	61.6	-7.6
	書くこと	81.6	-4.4	69.5	-3.3	53.2	-7.4
	読むこと	44.6	-10.6	75.2	-3.3	65.6	-4.6
	伝統的な言語文化と国語の特質	64.4	-12.8	63.1	-8.0	70.2	-7.8

平均無解答率	8.1	6.7	4.9
--------	-----	-----	-----

小学校〔国語B：主として活用〕

分類	区分	平成27年度		平成28年度		平成29年度	
		平均正答率	全国との差	平均正答率	全国との差	平均正答率	全国との差
全体		54.9	-10.5	52.8	-5.0	50*	-7.5
学習指導要領の 領域等	話すこと・聞くこと			47.0	-4.1	56.7	-8.2
	書くこと	49.0	-12.1	47.4	-6.0	44.4	-9.0
	読むこと	57.2	-10.9	64.3	-5.0	43.3	-5.9
	伝統的な言語文化と国語の特質						

平均無解答率	10.0	5.3	6.8
--------	------	-----	-----

※平成29年度より平均正答率は、文部科学省の発表に基づき、寒川町は小数点以下を四捨五入した結果を示しています。（全国は小数第1位まで、都道府県及び市町村は小数点以下を四捨五入した結果の公表となっています。）

※【児童・生徒質問紙より】国語に対する印象について

(69) 国語の勉強は好きですか → 当てはまる (%)	平成29年度	小学校	中学校
	寒川町	50.3	55.3
	県	62.7	56.3
	国	60.5	57.3
(71) 国語の授業の内容はよく分かりますか → 当てはまる (%)	平成29年度	小学校	中学校
	寒川町	73.9	78.0
	県	83.4	79.0
	国	82.2	80.0

中学校 [国語 A : 主として知識]

分類	区分	平成27年度		平成28年度		平成29年度	
		平均正答率	全国との差	平均正答率	全国との差	平均正答率	全国との差
全体		71.9	-3.9	69.8	-5.8	74※	-3.4
学習指導要領の 領域等	話すこと・聞くこと	78.0	-1.7	73.8	-5.1	73.0	-2.4
	書くこと	70.9	-2.7	69.3	-4.4	82.7	-3.0
	読むこと	84.8	-1.3	73.6	-5.0	70.7	-3.1
	伝統的な言語文化と国語の特質	67.5	-5.4	67.2	-6.7	73.4	-3.8

平均無解答率	2.7	4.1	4.3
--------	-----	-----	-----

中学校 [国語 B : 主として活用]

分類	区分	平成27年度		平成28年度		平成29年度	
		平均正答率	全国との差	平均正答率	全国との差	平均正答率	全国との差
全体		63.5	-2.3	58.4	-8.1	68※	-4.2
学習指導要領の 領域等	話すこと・聞くこと	70.9	-1.3			68.3	-4.1
	書くこと	34.0	-2.7	49.1	-9.2	55.2	-5.6
	読むこと	59.8	-2.8	58.4	-8.1	68.6	-3.5
	伝統的な言語文化と国語の特質					33.1	-8.3

平均無解答率	2.5	8.1	4.4
--------	-----	-----	-----

濃い黒い網掛けは全国の平均正答率との差が 10 ポイント以上のもの、薄い黒の網掛けは、全国の平均正答率との差が 5 ポイント以上のものです。(以下同様)

ここで考えていきたいことは、年度ごとの平均正答数の上がり下がりではなく、学校の授業での取り組みがどのように表れているかということです。なぜなら、年度ごとに調査をする児童や生徒は違いますので、その時々の良い結果、悪い結果などと単純に比較することができません。しかし、これまでに行ってきた授業改善への取り組みについては、ここからその傾向を読み取っていくことができます。

このことから、「学習指導要領の領域等」に焦点を当てて分析をしていきます。特に A 問題、B 問題ともにこの 3 年間共通して調査を行っている「読むこと」「書くこと」について、その成果と課題をまとめていきます。

「読むこと」「書くこと」について

古くから「読み書き」という言い回しがあるように、「読むこと」「書くこと」が大事であることは、誰の目にも明らかです。

どの授業でも、この「読むこと」「書くこと」は行いますので、これらの力をつけることは学習全体を通して必要なことです。

小学校 国語 読む能力

問題	区分	平成27年度		平成28年度		平成29年度	
		平均正答率	全国との差	平均正答率	全国との差	平均正答率	全国との差
A	読むこと	44.6	-10.6	75.2	-3.3	65.6	-4.6
B		57.2	-10.9	64.3	-5.0	43.3	-5.9

A 問題	「読むこと」 設問の概要	出題の趣旨	寒川町		
			(正 %) 答 率	率全 と国 の正 差答	無 解 答 率
4ー	俳句の情景について考えたこととして適切なものを選択する	俳句の情景を捉える	76.3	-3.1	1.0
4二	グループの話し合いを通して見付けた俳句のよさとして適切なものを選択する		52.3	-4.7	1.0
3	学校新聞を書くために、「時の記念日」についての【資料】から、小野さんと今村さんが中心に読むとよい段落をそれぞれ選択する	目的に応じて、文章の中から必要な情報を見付けて読む	68.3	-6.1	0.5

B 問題	「読むこと」 設問の概要	出題の趣旨	寒川町		
			(正 %) 答 率	率全 と国 の正 差答	無 解 答 率
3二	「きつねの写真」を読んだあとの話し合いにおけるア・イの発言の意図として、適切なものをそれぞれ選択する	自分の考えを広げたり深めたりするための発言の意図を捉える	25.7	-2.3	6.0
3一	「きつねの写真」を読み、登場人物の相互関係と場面についての描写を捉え、[A]に当てはまる言葉として適切なものを選択する	登場人物の相互関係や心情、場面についての描写を捉える	70.4	-5.5	4.1
3三	「きつねの写真」から取り上げた言葉や文を基に、松ぞうじいさんととび吉がきつねだと考えたわけをまとめて書く	物語を読み、具体的な叙述を基に理由を明確にして、自分の考えをまとめる	33.7	-10.0	28.6

中学校 国語 読む能力

問題	区分	平成27年度		平成28年度		平成29年度	
		平均正答率	全国との差	平均正答率	全国との差	平均正答率	全国との差
A	読むこと	84.8	-1.3	73.6	-5.0	70.7	-3.1
B		59.8	-2.8	58.4	-8.1	68.6	-3.5

A 問題	「読むこと」 設問の概要	出題の趣旨	寒川町		
			(正 %) 答率	率全 と国 の正 差答	無 解 答 率
8一	詩について説明したものとして適切なものを選択する	文章の表現の仕方について自分の考えをもつ	81.2	-0.7	1.2
4一	見出しの内容に対するまとめとして適切なものを選択する	文章の要旨を捉える	79.8	-1.2	0.2
4二	文章について説明したものとして適切なものを選択する	文章の構成や展開、表現の特徴について自分の考えをもつ	70.7	-2.2	0.2
6一	登場する人物を整理したものにて当てはまる人物の組合せとして適切なものを選択する	場面の展開や登場人物の描写に注意して読み、内容を理解する	70.7	-4.1	1.0
6二	「どれもこれも仁王を蔵しているのはなかった」の意味として適切なものを選択する		55.0	-5.1	1.0
8二	二人の交流の様子について説明したものとして適切なものを選択する	文章に表れているものの見方や考え方について、交流を通して自分の考えを広くする	66.7	-5.6	1.4

B 問題	「読むこと」 設問の概要	出題の趣旨	寒川町		
			(正 %) 答率	率全 と国 の正 差答	無 解 答 率
1一	本の紹介カードに書かれている登場人物の様子が具体的に表現されている箇所として適切なものを選択する	登場人物の言動の意味を考え、内容を理解する	83.1	-1.0	0.7
3二	太宰治と他の作家との関係を書き直したものとして適切なものを選択する	目的に応じて必要な情報を読み取る	77.4	-1.3	1.0
1二	地の文にある言葉を発した人物を文章の中から抜き出す	場面の展開や登場人物などの描写に注意して読み、内容を理解する	81.0	-3.1	5.2
1三	比喩を用いた表現に着目し、感じたことや考えたことを書く	表現の仕方について捉え、自分の考えを書く	33.1	-8.3	15.0

このことから、小学校、中学校とも「読む能力」については定着してきています。これについては、寒川町の小学校、中学校では、それぞれの学校の実態に応じて校内で研究テーマを決めて、授業改善に取り組んでいます。特に国語の研究をしている学校においては、物語文や説明文の読解などについての授業改善の取り組みをしています。また、「さむかわ学びっ子育成推進事業」として、外部より直接各校に大学の講師を招聘し、ご指導いただいている経緯もあります。この場合、授業を学校の外に向けても公開し、他の小学校や中学校から参観者が集まり、研究協議をするなどの交流も行っています。他の学校の研究の良いところを自分の学校に持ち帰ることで、国語についての授業改善につなげています。「読むこと」についてはこのような授業改善への取り組みが大きく関係しています。

小学校 国語 書く能力

問題	区分	平成27年度		平成28年度		平成29年度	
		平均正答率	全国との差	平均正答率	全国との差	平均正答率	全国との差
A	書くこと	81.6	-4.4	69.5	-3.3	53.2	-7.4
B		49.0	-12.1	47.4	-6.0	44.4	-9.0

A 問題	「書くこと」 設問の概要	出題の趣旨	寒川町		
			(正 %) 答率	率全 と国 の正 差答	無 解 答 率
2一	お礼の気持ちを伝えるために、どのような内容を書いているのか、書かれている内容の説明として適切なものを選択する	目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして、詳しく書く	74.1	-5.6	0.2
2二	手紙の後付けに必要な、日付、署名、宛て名のそれぞれの位置について、適切なものを選択する	手紙の構成を理解し、後付けを書く	32.4	-9.1	0.2

B 問題	「書くこと」 設問の概要	出題の趣旨	寒川町		
			(正 %) 答率	率全 と国 の正 差答	無 解 答 率
2二	【友達の考え】と同じ考えの人を説得するために引用する文章を、【『緑のカーテンを始めよう』の一部】から選択する	目的や意図に応じ、引用して書く	66.3	-4.6	3.8
2一	【緑のカーテン作りへの協力をお願い】における文章の構成の工夫として当てはまるものを選択する	目的や意図に応じて、文章全体の構成を考える	62.5	-8.3	1.0
3三	「きつねの写真」から取り上げた言葉や文を基に、松ぞうじいさんととび吉がきつねだと考えたわけをまとめて書く	物語を読み、具体的な叙述を基に理由を明確にして、自分の考えをまとめる	33.7	-10.0	28.6
2三	「水やりに協力してくれる人をば集めます」の[イ]に入る内容を、中学生からの【アドバイス】を基に書く	目的や意図に応じ、必要な内容を整理して書く	22.6	-10.4	4.8
1三	折り紙のみりよくについて、スピーチメモとグループの話し合いで出された意見を基に書く	目的や意図に応じて、話の構成や内容を工夫し、場に応じた適切な言葉遣いで自分の考えを話す	37.0	-11.4	6.3

中学校 国語 書く能力

問題	区分	平成27年度		平成28年度		平成29年度	
		平均正答率	全国との差	平均正答率	全国との差	平均正答率	全国との差
A	書くこと	70.9	-2.7	69.3	-4.4	82.7	-3.0
B		34.0	-2.7	49.1	-9.2	55.2	-5.6

A 問題	「書くこと」 設問の概要	出題の趣旨	寒川町		
			(正 %) 答率	率全 と国 の正 差答	無 解 答 率
5二	〈推薦者から〉の欄に書き加える具体例に使う情報として適切なものを選択する	目的や意図に応じて材料を集め、自分の考えをまとめる	93.3	0.6	0.7
3二	一文を書き加える際に参考にした助言として適切なものを選択する	書いた文章についての助言を基に、自分の表現を見直す	81.4	-2.9	0.2

5ー	〈立候補者から〉の欄の書き方を説明したものとして適切なものを選択する	文章の構成を工夫して分かりやすく書く	76.7	-3.1	0.7
3ー	それまでがんばってきた様子が読み手により伝わるように書き直す	書いた文章を読み返し、語句の使い方を工夫して書く	79.5	-6.5	3.6

B 問題	「書くこと」 設問の概要	出題の趣旨	寒川町		
			(正 %) 答 率	全 国 の 正 差 答 率	無 解 答 率
2三	スピーチの内容を聞き手からの意見に基づいて直す	相手の反応を踏まえながら、事実や事柄が相手に分かりやすく伝わるように工夫して話す	52.4	-5.2	6.4
3ー	下書きについての説明として適切なものを選択する	集めた材料を整理して文章を構成する	68.6	-6.7	0.7
1三	比喻を用いた表現に着目し、感じたことや考えたことを書く	表現の仕方について捉え、自分の考えを書く	33.1	-8.3	15.0

しかしながら、「書くこと」については課題があります。先ほどの「さむかわ学びっ子育成推進事業」では、各校の研究を推進している中心的な役割を担う教師を集めて、「さむかわ学びっ子育成事業研究推進委員会」を開催しています。その協議中で「書くこと」については、「授業では、自分の考えを書いたり、話し合いを通して深めた考えを書いたりする活動を行っている。しかしそれは授業の流れの中でのことで、テストなどでは自分で必要な情報を取り出して書くことについて難しさを感じている実態もある」と分析しました。

「書くこと」についての明確な課題を共通認識することができ、それを各校に持ち帰り、日々の授業実践に生かしていきます。

これらのことから、成果と課題については次のとおりです。

成果

これまでに取り組んで『強み』になったこと

文章に書いてある内容を意識して読むことができる

(内容を相互に関連付けながら読むことにつなげていく)

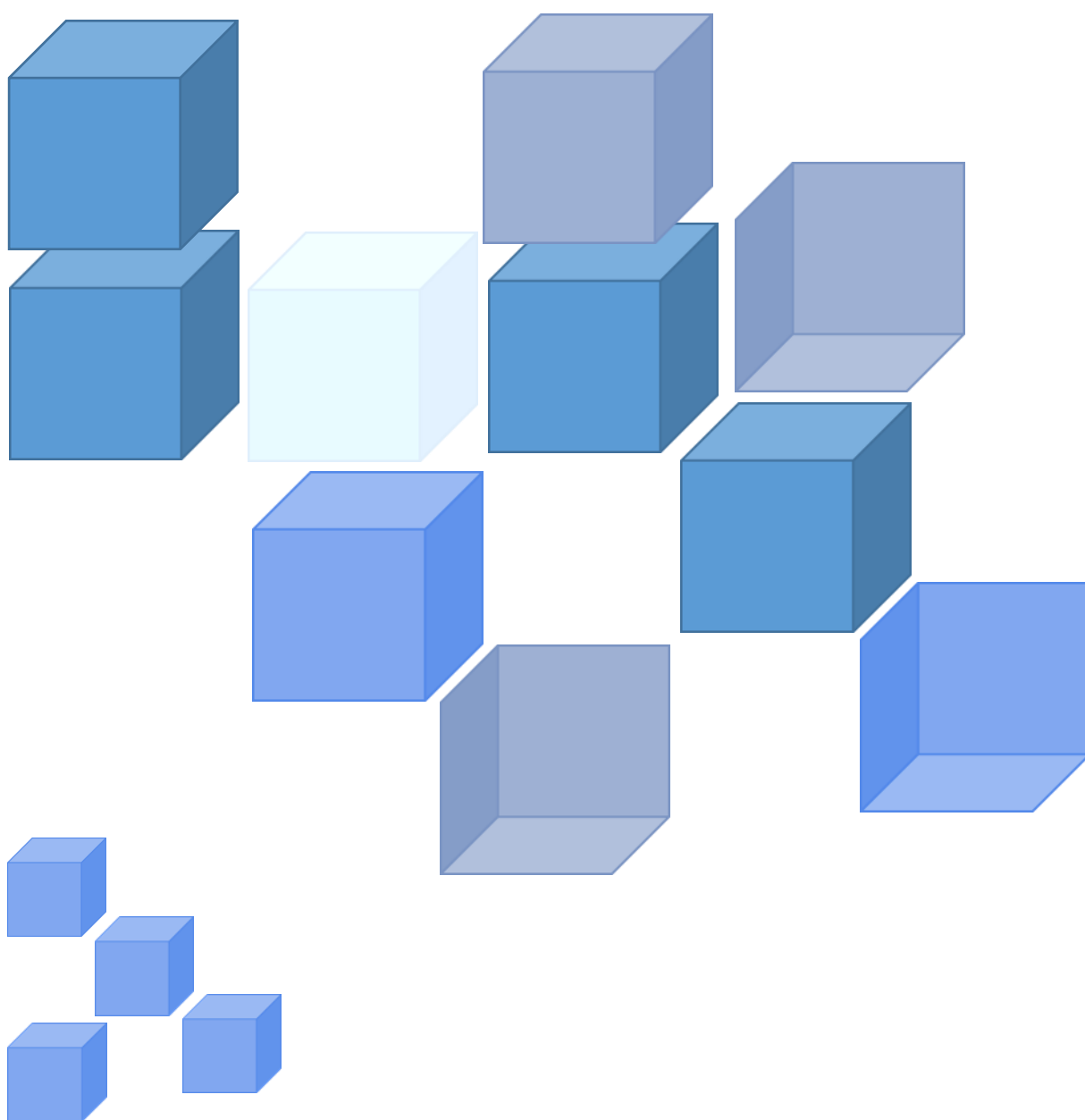
課題

これまでも取り組んできたが、より重点的に今後取り組みたいこと

目的や意図に応じて必要な情報を取り出して書くこと

集めた情報を根拠にして自分の考えや意見を書くこと

3. 算数・数学の結果分析



算数・数学について

算数については、小学校では、「数と計算」「量と測定」「図形」「数量関係」の4つの領域、中学校では「数と式」「図形」「関数」「利用の活用」の4つの領域に分かれています。全体的な傾向としては、次のとおりです。

小学校 [算数A：主として知識]

分類	区分	平成27年度		平成28年度		平成29年度	
		平均正答率	全国との差	平均正答率	全国との差	平均正答率	全国との差
全体		67.6	-7.6	73.4	-4.2	72※	-6.6
学習指導要領の 領域等	数と計算	72.1	-8.0	76.2	-4.3	73.6	-7.0
	量と測定	64.4	-6.9	74.5	-2.5	62.0	-6.8
	図形	56.0	-8.5	70.9	-7.9	75.3	-5.8
	数量関係	79.9	-5.0	64.5	-4.0	72.5	-7.1

平均無解答率	3.3	2.0	2.5
--------	-----	-----	-----

小学校 [算数B：主として活用]

分類	区分	平成27年度		平成28年度		平成29年度	
		平均正答率	全国との差	平均正答率	全国との差	平均正答率	全国との差
全体		37.7	-7.3	42.0	-5.2	40※	-5.9
学習指導要領の 領域等	数と計算	34.4	-8.0	39.0	-5.4	48.2	-4.6
	量と測定	35.2	-6.5	41.6	-2.1	39.9	-7.1
	図形	39.2	-6.4	35.3	-1.0	6.5	-6.7
	数量関係	34.3	-8.7	37.4	-5.5	32.3	-7.7

平均無解答率	13.5	9.2	10.1
--------	------	-----	------

※平成29年度より平均正答率は、文部科学省の発表に基づき、寒川町は小数点以下を四捨五入した結果を示しています。（全国は小数第1位まで、都道府県及び市町村は小数点以下を四捨五入した結果の公表となっています。）

※【児童・生徒質問紙より】算数・数学に対する印象について

(78) 算数の勉強は好きですか (80) 数学の勉強は好きですか → 当てはまる (%)	平成29年度	小学校	中学校
	寒川町	65.0	57.4
	県	66.1	57.9
	国	65.9	55.4
(80) 算数の授業の内容はよく分かりますか (82) 数学の授業の内容はよく分かりますか → 当てはまる (%)	平成29年度	小学校	中学校
	寒川町	75.7	76.4
	県	79.3	72.7
	国	80.6	69.4

中学校 [数学A：主として知識]

分類	区分	平成27年度		平成28年度		平成29年度	
		平均正答率	全国との差	平均正答率	全国との差	平均正答率	全国との差
全体		60.1	-4.3	54.3	-7.9	62※	-2.6
学習指導要領の 領域等	数と式	62.3	-5.4	58.6	-7.3	64.4	-6.0
	図形	61.0	-2.4	58.5	-8.6	65.8	-0.2
	関数	58.7	-3.0	44.4	-7.6	55.4	-2.0
	資料の活用	53.6	-9.4	48.2	-8.3	55.8	-1.8

平均無解答率	3.8	9.4	8.4
--------	-----	-----	-----

中学校 [数学B：主として活用]

分類	区分	平成27年度		平成28年度		平成29年度	
		平均正答率	全国との差	平均正答率	全国との差	平均正答率	全国との差
全体		38.9	-2.7	36.1	-8.0	44※	-4.1
学習指導要領の 領域等	数と式	58.4	-4.8	41.9	-9.6	41.4	-4.9
	図形	37.5	-1.5	26.6	-6.7	42.4	-4.7
	関数	28.3	-2.4	35.2	-6.2	47.9	-2.9
	資料の活用	28.9	-2.3	30.0	-9.3	46.9	-2.2

平均無解答率	14.0	22.2	15.8
--------	------	------	------

算数・数学については、A問題とB問題との無回答率の違いに大きな特徴があります。主として知識を問う設問には計算の結果自体が答えになるものが多く、逆にB問題では問題自体が一見して難しいと感じることも多いことから、諦めてしまう傾向が無回答率に色濃く出ています。児童・生徒の個々が持つ苦手意識の部分についてアプローチすることが大事です。

また、国語同様、年度ごとの平均正答数の上がり下がりではなく、学校の授業での取り組みがどのように表れているかを見ると、「図形」の領域は知識面での授業改善の成果が出ているようです。自分で考え、友達と話し合い、発表し、みんなで共有していくという一連の活動を取り入れた授業が行われた結果が出ています。

領域ごとに分析をすると、小学校の「数と計算」、中学校の「数と式」については、正答率という観点からすると一定の水準ですが、回答の内容から課題も多いことから、この領域に焦点を当てて成果と課題をまとめていきます。

「数と計算」「数と式」について

国語の分析の中で、「読み書き」という言い回しについて触れましたが、誰もが知るように「そろばん」という言葉が続くこともあります。「そろばん」が意味することとして「計算」が挙げられます。「読み書き」と同様に「計算」も、生活をする上で全く使わないことはありません。

算数・数学の授業では、ほとんどの学習において計算をしますので、ここでは小学校の「数と計算」、中学校の「数と式」について分析をしていきます。

小学校 算数 数と計算

問題	区分	平成27年度		平成28年度		平成29年度	
		平均正答率	全国との差	平均正答率	全国との差	平均正答率	全国との差
A	数と計算	72.1	-8.0	76.2	-4.3	73.6	-7.0
B		34.4	-8.0	39.0	-5.4	48.2	-4.6

A 問題	「数と計算」 設問の概要	出題の趣旨	寒川町		
			(%) 正答率	率全 と国 の正 差答	無 解 答 率
2 (2)	10. $3 + 4$ を計算する	小数と整数の加法の計算をすることができる	77.2	-2.5	0.7
1 (2)	買ったリボンの長さと、1m当たりのリボンの値段と、代金が、それぞれ数直線上のどこに当てはまるかを選ぶ	1より小さい小数をかける乗法の問題場面を理解し、数量の関係を数直線に表すことができる	66.7	-3.2	2.4
1 (3)	60×0.4 を、 60×4 を基にして考えるときの、正しい積の求め方を選ぶ	小数の乗法の計算において、乗数を整数に置き換えて考えるときの、乗法の性質を理解している	87.1	-3.9	1.0
2 (1)	123×52 を計算する	整数の乗法の計算をすることができる	76.0	-9.2	1.2
2 (4)	$5 \div 9$ の商を分数で表す	商を分数で表すことができる	54.0	-15.2	7.7

B 問題	「数と計算」 設問の概要	出題の趣旨	寒川町		
			(%) 正答率	率全 と国 の正 差答	無 解 答 率
1 (2)	示された考えを基に、 $54 - 45$ の場合で残る部分を図に表す	示された考えを解釈し、数を変更した場合も同じ関係が成り立つことを、図に表現することができる	82.9	1.1	5.5
1 (1)	カードの差が4の場合の、2けたのひき算の式と答えを書く	示された条件を基に、適切な式を立てることができる	75.7	-0.3	3.1
2 (2)	13本の直線を使う場合、手紙の用紙の長い辺を3等分するのは、何本目の直線と交わった点かを書く	直線の数とその間の数の関係に着目して、示された方法を問題場面に適用することができる	22.4	-5.0	8.4
1 (3)	2けたのひき算の答えを求めることができるきまりを書く	問題に示された二つの数量の関係を一般化して捉え、そのきまりを記述できる	29.6	-9.0	23.8
2 (1)	小さい封筒で手紙を送る場合と大きい封筒で手紙を送る場合の、料金の差の求め方と答えを書く	料金の差を求めるために、示された資料から必要な数値を選び、その求め方と答えを記述できる	30.3	-10.1	12.7

小学校の「数と計算」では、かけ算やわり算に課題があります。どのような間違いだったのかを調べると、繰り上がりや位取りの間違いではなかったもので、計算方法自体が分からないことが読み取れます。また、わり算と分数の関係については、小数で表そうとした間違いが多く見られました。この2つの設問に共通して言えることは、無解答率が多くないことです。これは分からないことはあっても、問題を解こうとする姿勢があったということです。計算は日々使うことで定着していきます。学校の授業だけでの定着が難しい場合、家庭でも練習することで確実に向上していきます。

中学校 数学 数と式

問題	区分	平成27年度		平成28年度		平成29年度	
		平均正答率	全国との差	平均正答率	全国との差	平均正答率	全国との差
A	数と式	62.3	-5.4	58.6	-7.3	64.4	-6.0
B		58.4	-4.8	41.9	-9.6	41.4	-4.9

A 問題	「数と式」 設問の概要	出題の趣旨	寒川町		
			(正 %) 答 率	率全 と国 の正 差答	無 解 答 率
3 (3)	$x+y=2$ の解の意味について選ぶ	二元一次方程式の解の意味を理解している	58.3	-1.3	1.4
2 (3)	$(2x+5y)-(6x-3y)$ を計算する	整式の加法と減法の計算ができる	73.6	-4.9	2.9
3 (1)	一元一次方程式 $4x=7x+15$ を解く	簡単な一元一次方程式を解くことができる	76.9	-5.8	10.5
1 (1)	$\frac{5}{9} \times \frac{2}{3}$ を計算する	分数の乗法の計算ができる	78.8	-8.3	3.1
1 (3)	$10-6 \div (-2)$ を計算する	加減乗除を含む正の数と負の数の計算において、計算のきまりにしたがって計算できる	66.9	-8.7	3.1
3 (4)	連立二元一次方程式 $\begin{cases} 4x+2y=5 \\ x+y=2 \end{cases}$ を解く	簡単な連立二元一次方程式を解くことができる	53.3	-8.9	17.9

B 問題	「数と式」 設問の概要	出題の趣旨	寒川町		
			(正 %) 答 率	率全 と国 の正 差答	無 解 答 率
2 (3)	六角形を n 個つくるのに必要なストローの本数を、 $6+5(n-1)$ という式で求めることができる理由を説明する	事象と式の対応を的確に捉え、事柄が成り立つ理由を説明することができる	11.7	-2.8	28.9
2 (1)	六角形を5個つくるのに必要なストローの本数を求める	問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる	74.7	-5.7	2.9
2 (2)	六角形を n 個並べて6本ずつ囲んだときに、2回数えているストローを n を用いた式で表す	与えられた説明の筋道を読み取り、事象を数学的に表現することができる	37.7	-6.4	13.4

中学校の「数と式」では、文字を含む式の加法や減法については正答率が高いですが、乗法や除法については理解が十分ではないことが見取れます。設問1（1）では、分数のわり算の計算の仕方と取り違えた誤答よりそれ以外の誤答の割合が多く、これについても小学校同様、十分に習熟が図られていないことが分かります。設問1（3）にも共通することとして、継続的に計算の仕方を確認することが、「忘れてしまう」「分からなくなってしまう」を防ぐこととなりますので、学校、家庭の両方において計算をする機会を多くとっていくことが大事です。

また、もう一つ特徴的なこととしては、方程式の設問では無解答率が高くなることです。算数・数学全般的な分析の中で、簡単なもの、分かりそうなものについては無回答率が低くなることから、方程式の設問と分かった時点で諦めてしまっていると考えられます。方程式についても計算同様、問題を解く機会と経験が解き方や仕組みの理解につながります。

これらのことから、算数・数学についての成果と課題については次のとおりです。

成果

これまでに取り組んで『強み』になったこと

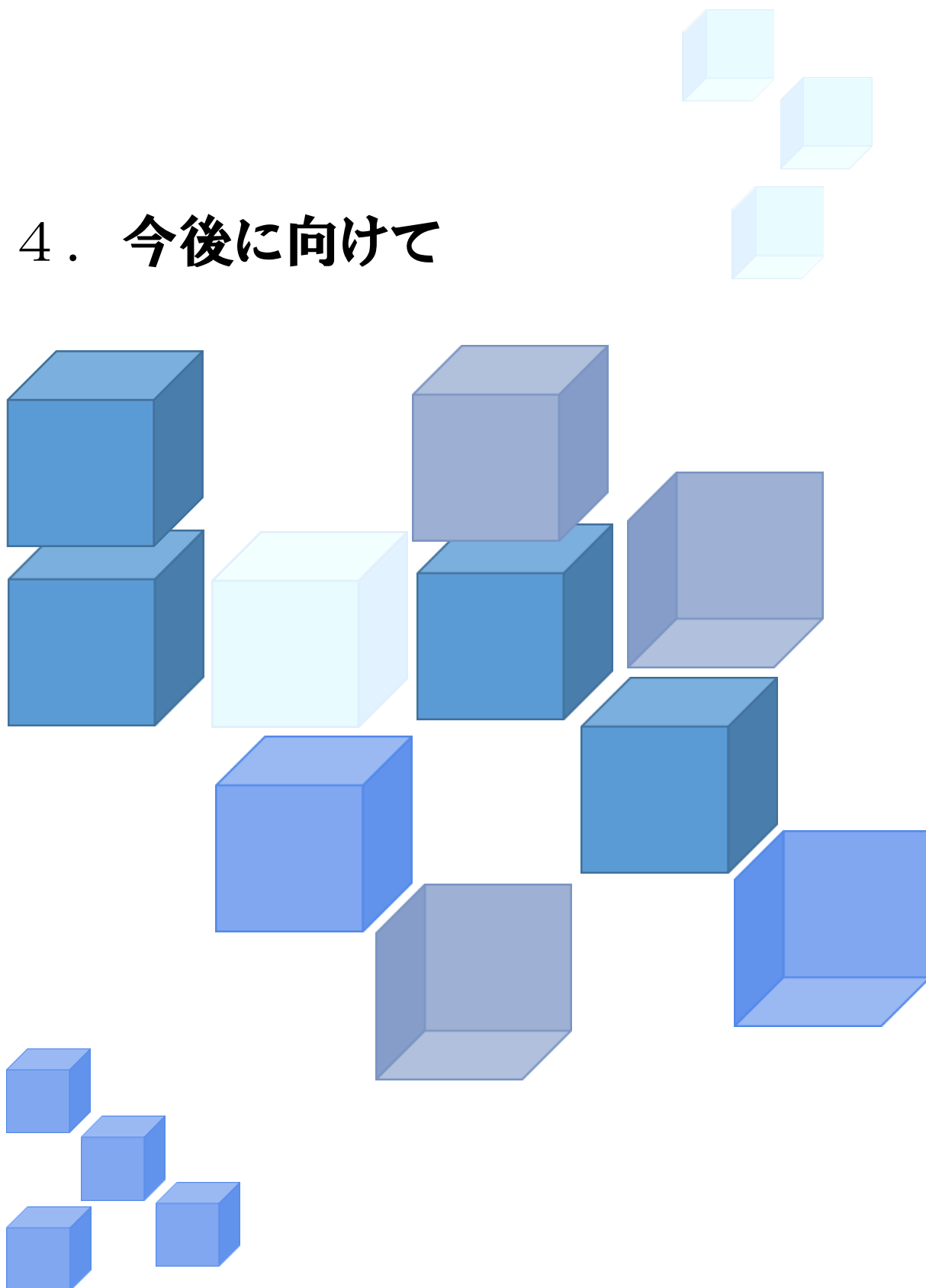
「図形」の領域等では、言語活動を取り入れた授業改善が見られる
（「主体的・対話的で深い学び」の素地が根付きつつある）

課題

これまでにでも取り組んできたが、より重点的に今後取り組みたいこと

計算については継続的に習熟を図っていく必要がある
（四則（ $+$ $-$ $\times$ $\div$ ）の計算、分数、小数、方程式）

4. 今後に向けて



平成 28 年度の分析から

全国学力・学習状況調査の結果についての分析の中で、寒川町の傾向についてまとめを行ってきました。平成 28 年度の結果分析の概要について 5.「児童・生徒質問紙と教科における調査の正答率のクロス集計から、導かれること及び指導上留意すべき事項」の中で、学習に必要な要素を次のようにまとめています。

学習に必要な要素

○ 学習の土台

- ・ 学校生活 … 安心して取り組める学習環境
- ・ 家庭生活 … 基本的な生活習慣の確立
遊び・学習のバランスを意識した生活

○ 学習の積み重ね

- ・ 学校生活 … 基礎・基本の習得・習熟
「主体的・対話的で深い学び」を意識した授業
- ・ 家庭生活 … 基礎・基本の習熟（予習・復習・宿題）

このことについて、それぞれの要素について平成 29 年度の児童・生徒質問紙の結果を照らし合わせていきます。

学習の土台について 学校生活・家庭生活

○ 学校生活について … 安心して取り組める学習環境であるか

	平成29年度	小学校	中学校
学校に行くのは楽しいと思いますか → 当てはまる（％）	寒川町	86.8	82.0
	県	86.3	79.6
	国	86.3	80.9

	平成29年度	小学校	中学校
学校で、友達に会うのは楽しいと思いますか → 当てはまる（％）	寒川町	95.9	94.0
	県	96.3	93.9
	国	96.4	94.6

学校で、好きな授業がありますか → 当てはまる (%)	平成29年度	小学校	中学校
	寒川町	93.3	83.0
	県	93.3	79.6
	国	93.0	79.2

先生は、あなたのよいところを認めてくれて いると思いますか → 当てはまる (%)	平成29年度	小学校	中学校
	寒川町	81.1	84.4
	県	84.0	77.9
	国	86.0	80.4

先生は、授業やテストで間違えたところや、 理解していないところについて、分かるまで 教えてください → 当てはまる (%)	平成29年度	小学校	中学校
	寒川町	82.5	83.7
	県	81.6	72.6
	国	85.1	75.5

成果

これまでに取り組んで『強み』になったこと

- ・ 学校に通うことが好きである児童・生徒が多い
- ・ 教師はしっかりと児童・生徒と向き合って、
認めること、教えることができている

○ 家庭生活について … 基本的な生活習慣は確立されているか

朝食を毎日食べていますか → 当てはまる (%)	平成29年度	小学校	中学校
	寒川町	92.6	92.6
	県	95.3	91.8
	国	95.4	93.2

毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか → 当てはまる (%)	平成29年度	小学校	中学校
	寒川町	77.7	77.2
	県	79.3	72.0
	国	79.8	75.6

毎日、同じくらいの時刻に起きていますか → 当てはまる (%)	平成29年度	小学校	中学校
	寒川町	89.2	93.1
	県	90.2	89.3
	国	91.2	92.4

成果

これまでに取り組んで『強み』になったこと

- ・「早寝・早起き・朝ごはん」の習慣ができている
(家庭から学校へ送り出す意識が高い)

○ 家庭生活について … 遊び・学習のバランスを意識して生活しているか

月曜日から金曜日で1日当たり1時間以上 テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたり する割合(%)	平成29年度	小学校	中学校
	寒川町	88.0	83.1
	県	80.6	79.2
	国	83.0	79.2

月曜日から金曜日、1日当たり1時間以上 テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式の ゲーム、携帯電話やスマートフォンを使った ゲームも含む)をする割合(%)	平成29年度	小学校	中学校
	寒川町	66.5	61.0
	県	55.2	61.5
	国	55.5	59.0

月曜日から金曜日、1日当たり1時間以上 携帯電話やスマートフォンで通話やメール、 インターネットをする割合(%)	平成29年度	小学校	中学校
	寒川町	15.2	42.0
	県	12.9	39.6
	国	12.0	32.2

学校の授業時間以外に、月曜日から金曜日に 1日当たり1時間以上勉強をする割合(%) (学習塾で勉強している時間や家庭教師に 教わっている時間も含む)	平成29年度	小学校	中学校
	寒川町	43.2	57.0
	県	59.7	71.7
	国	64.4	69.6

携帯電話やスマートフォンの使い方について、 家の人と約束したことを守っていますか → 当てはまる(%)	平成29年度	小学校	中学校
	寒川町	56.1	61.3
	県	54.8	57.8
	国	48.7	50.6

テレビを見る時間やゲームをする時間などの ルールを家の人と決めていますか → 当てはまる(%)	平成29年度	小学校	中学校
	寒川町	53.0	34.2
	県	58.5	32.1
	国	58.3	34.0

家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか → 当てはまる(%)	平成29年度	小学校	中学校
	寒川町	46.8	50.3
	県	62.5	50.4
	国	64.5	51.5

成果これまでに取り組んで『強み』になったこと

- ・ 携帯電話やスマートフォンの使い方のルールを決め、守っている児童・生徒が多い
(保護者と子供の信頼関係がある)

課題これまでにでも取り組んできたが、より重点的に今後取り組みたいこと

- ・ 計画を立てて学習することを意識する
(家庭での持続可能な学習の在り方を考えていく)

学習の積み重ねについて 学校生活・家庭生活

○ 学校生活について … 基礎・基本の習得・習熟に関わる授業の視点

5年生 または 1・2年生 までに受けた授業の中で目標（めあて・ねらい）が示されていたと思いますか → 当てはまる（％）	平成29年度	小学校	中学校
	寒川町	86.6	94.3
	県	85.5	81.8
	国	88.2	87.8

5年生 または 1・2年生 までに受けた授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか → 当てはまる（％）	平成29年度	小学校	中学校
	寒川町	70.5	72.7
	県	72.8	60.6
	国	76.2	66.1

5年生 または 1・2年生 までに受けた授業で扱うノートには、学習の目標（めあて・ねらい）とまとめを書いていたと思いますか → 当てはまる（％）	平成29年度	小学校	中学校
	寒川町	89.2	88.0
	県	85.3	72.4
	国	88.7	80.3

成果これまでに取り組んで『強み』になったこと

- ・ その授業のめあてやねらいが示されている
 - ・ ノートにもめあてやねらいが書かれている
- (授業で何をするか、教師と児童・生徒が共通理解)

課題これまでも取り組んできたが、より重点的に今後取り組みたいこと

- ・ 振り返りをしっかりすることで、その授業で身についたことを確認する
 - ・ 「何を」「どのように」振り返るかを明確にする
- (学習内容の習得・習熟について大きく影響する)

○ 家庭生活 ... 基礎・基本の習熟（予習・復習・宿題）への取り組み

家で、学校の宿題をしていますか → 当てはまる (%)	平成29年度	小学校	中学校
	寒川町	95.9	81.1
	県	96.4	84.0
	国	96.9	89.5

家で、学校の授業の予習をしていますか → 当てはまる (%)	平成29年度	小学校	中学校
	寒川町	33.5	31.6
	県	38.6	35.5
	国	41.0	31.7

家で、学校の授業の復習をしていますか → 当てはまる (%)	平成29年度	小学校	中学校
	寒川町	36.7	44.5
	県	44.1	44.2
	国	53.8	50.5

成果

これまでに取り組んで『強み』になったこと

- ・ 小学校では学校で出された宿題をしている児童が多い
(小学校で定着した宿題の習慣を中学校でも引き継ぐ)

課題

これまでも取り組んできたが、より重点的に今後取り組みたいこと

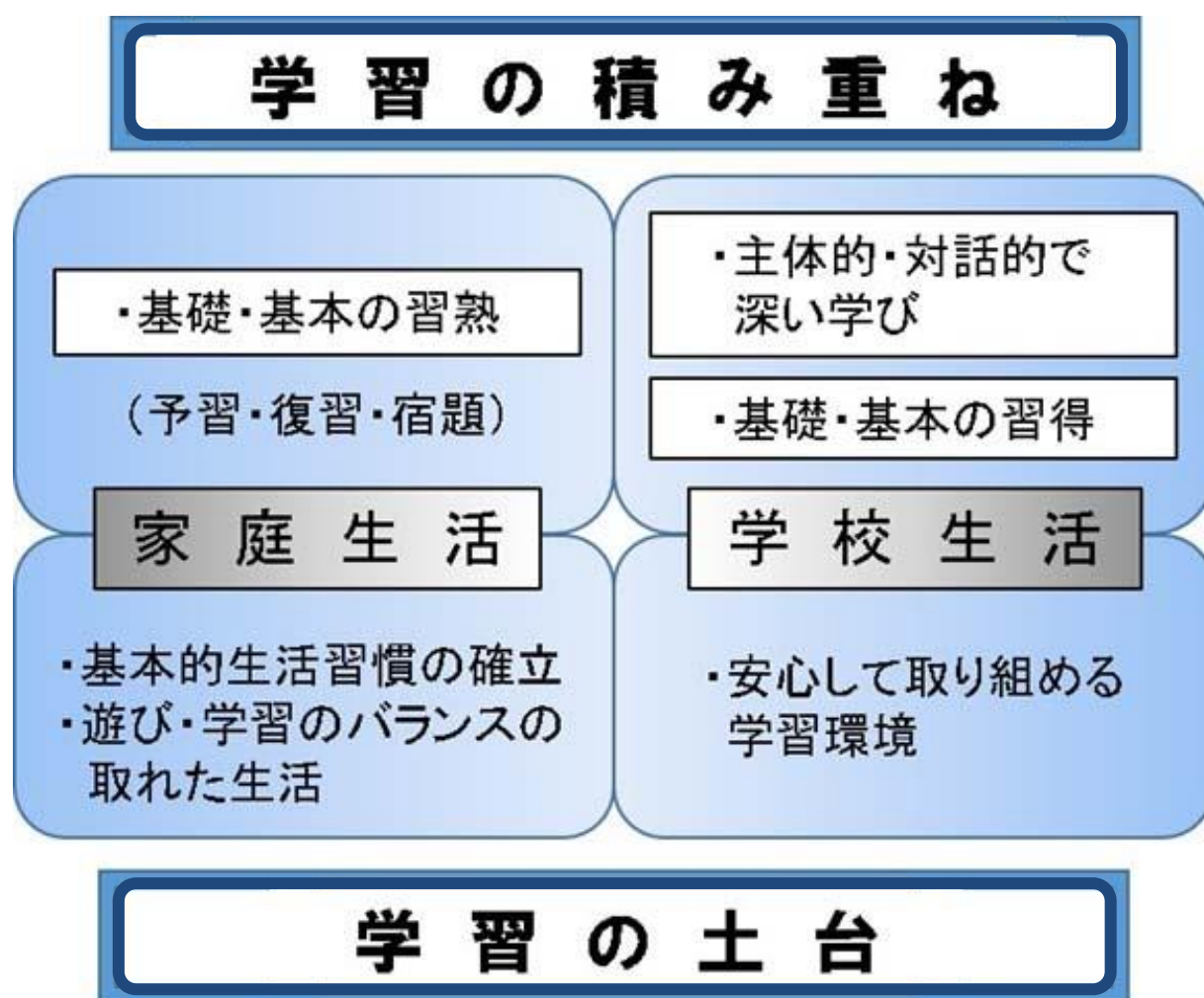
- ・ 家庭で予習や復習をする習慣を定着させる
(予習・復習については、「何を」「どのように」
学習したらよいか分かりにくい側面もある)

今後の取り組みについて

前段までのことから、寒川町で行っている教育活動は現行および新学習指導要領と向っている方向は同じです。平成 27 年度、28 年度の結果分析¹⁰で挙げている内容は今後も継続していくことが大事です。

その中でも「はじめに」にありますように、「成果」を「これまでに取り組んで『強み』になったこと」、「課題」を「これまでも取り組んできたが、今後より重点的に取り組みたいこと」として、学校だけでなく、家庭と一緒に取り組んでいけることについて考えてきました。

今後も、これまでの取り組みを評価しつつ、次のステップにつなげられるよう「学習に必要な要素」の概念図にあるポイントに焦点をしばって取り組みを続けていきます。



¹⁰ 平成 27 年度、平成 28 年度全国学力・学習状況調査の結果及び結果分析の概要については寒川町のホームページで公表されています。(右 QR コード)

※「主体的・対話的で深い学び」を意識した授業の視点については、「1.求められている授業の形 (p.4)」の 9【新学習指導要領との関連：主体的・対話的で深い学び】を参照。



家庭での学習について … 基礎・基本の「習熟」に向けて

授業で学習したことは、授業内で理解（習得）するよう、学校では日々授業実践を行っています。教科書を読むだけ、学習内容のビデオ教材を見る¹¹だけで習得することは、小学校、中学校の児童・生徒には難しいことです。

前段での授業スタイルになりますが、その授業で必要な知識・技能等を教わり、それについての課題を自分で考え、友達と話し合い、発表し、共有することを通して学習内容の習得につなげます。そこで習得したことをしっかりと自分のもの（習熟）にするためには、家庭学習が必要になります。

毎日家庭で大変な量の学習を行うことは、継続して学習を行う習慣にはつながりません。それぞれの家庭の生活のリズムに合った形で、少しずつコツコツと取り組んでいくことが持続可能な学習をするには大事です。

そこで、これまでの分析の中で出てきた算数・数学の課題としては、主として計算問題が挙げられます。

課題

これまでにも取り組んできたが、より重点的に今後取り組みたいこと

計算については継続的に習熟を図っていく

（四則（ $+$ $-$ $\times$ $\div$ ）の計算、分数、小数、方程式）

計算問題は、算数・数学の一番土台となる部分です。しかしながら、「数と計算」「数と式」は教育課程上一定の期間でのみ単元として詳しく扱います。それ以外の期間にも児童・生徒それぞれの力に応じて、また、それぞれの家庭の持続可能な範囲で、継続して取り組んでいくことが大事です。

¹¹子供たちの65%は将来、今は存在していない職業に就く（キャシー・デビッドソン氏（ニューヨーク市立大学大学院センター教授））との予測や、今後10年～20年程度で、半数近くの仕事が自動化される可能性が高い（マイケル・オズボーン氏（オックスフォード大学准教授））などの予測がある。その中であって、小学校、中学校の教師は、単に知識・技能の伝達に留まらないその専門性によって存続していく職業とされている。（「次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ」に付記）

国語では「書くこと」について課題がありました。

課題

これまでにも取り組んできたが、より重点的に今後取り組みたいこと

目的や意図に応じて必要な情報を取り出して書くこと

集めた情報を根拠にして自分の考えや意見を書くこと

これについては、家庭で継続的に行うには難しさもあり、学校の授業の中で行うもの、また、それを家庭でまとめることで、習熟の機会を作っていくことが必要です。
また、国語については継続的に行うことで力になっていく領域があります。

小学校 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

分類	区分	平成27年度		平成28年度		平成29年度	
		平均正答率	全国との差	平均正答率	全国との差	平均正答率	全国との差
国語A	言語についての知識・理解・技能	64.4	-12.8	63.1	-8.0	70.2	-7.8

A 問題	「漢字の読み・書き」 設問の概要	出題の趣旨	寒川町		
			(正 %) 答 率	率全 と国 の正 差答	無 解 答 率
7(3)	漢字を読む (申しこみ期限)	学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読む	92.8	-1.7	4.6
7(4)	漢字を読む (事務室前)		87.5	-1.3	4.8
7(6)	漢字を読む (指示)		88.2	-6.3	3.6
7(1)	漢字を書く (参加たいしょう)	学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書く	22.3	-19.7	20.1
7(2)	漢字を書く (4年生のきぼう者)		67.6	-12.4	9.4
7(5)	漢字を書く (箱がおいてあります)		64.3	-12.5	22.8

中学校 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

問題	区分	平成27年度		平成28年度		平成29年度	
		平均正答率	全国との差	平均正答率	全国との差	平均正答率	全国との差
国語A	言語についての知識・理解・技能	67.5	-5.4	67.2	-6.7	73.4	-3.8

A 問題	「漢字の読み・書き」 設問の概要	出題の趣旨	寒川町		
			(正 答 率)	率全 と国 の正 差答	無 解 答 率
9二1	漢字を読む（ <u>覚悟</u> を決める）	文脈に即して漢字を正しく読む	97.6	-1.1	2.1
9二2	漢字を読む（ <u>鮮やかな色合い</u> ）		94.0	-0.5	1.4
9二3	漢字を読む（ <u>水が垂れる</u> ）		91.0	-3.3	2.9
9一1	漢字を書く（組織の <u>主</u> を大きくする）	文脈に即して漢字を正しく書く	45.2	-17.6	31.9
9一2	漢字を書く（雨で運動会が <u>エンキ</u> になる）		48.6	-13.7	25.0
9一3	漢字を書く（店を <u>イトナ</u> む）		77.1	-8.3	15.5

国語の領域「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」には、漢字や語句の設問が含まれます。これらについても継続的に学習することで確実に力になっていきます。

家庭での取り組みについて … どのように学習をしたらよいか

課題

これまでにも取り組んできたが、より重点的に今後取り組みたいこと

- ・ 計画を立てて学習することを意識する

（家庭での持続可能な学習の在り方を考えていく）

以上のことから、具体的にどのように家庭学習をしていけばよいかお伝えしていきます。

平成 29 年 4 月に「家庭学習の手引き」を寒川町内全児童・生徒に配布しました。この手引きは、平成 28 年度の全国学力・学習状況調査の分析をもとに作成しています。

手引きには、その学年の課題とされる学習内容とともに、インターネット型学習支援サービス「e-ライブラリ」を活用した学習コンテンツについて載せてあります。これを活用することにより、それぞれの児童・生徒の実態に応じて、それぞれのペースで取り組むことができます。

家庭生活にテレビやゲーム等の時間があるように、学習をする時間を計画に取り入れることで、テレビやゲームの精神的な部分とともに、将来の生活につながる自分自身の豊かさを、自分の力で増やしていくことが大事です。

課題

これまでにも取り組んできたが、より重点的に今後取り組みたいこと

- ・ 家庭学習の手引き、e-ライブラリの活用による習熟
(個々の様子に合わせて適切な内容を計画的に)

平成29年度版
家庭学習の手引き ～ 学習、テレビやゲーム、読書のバランスを大切に ～

よく学び よく遊び よく生きる
寒川町教育委員会

小学校 5・6年生 学んだことを使って挑戦する

1日の学習時間の目安
60分～
まずはできる時間から始めよう

**自分の意見ははっきりと！
相手を意識した行動を。**

生活 テレビやゲームなどの時間は守られていますか。規則的な生活は大事です。今一度、生活習慣の見直しをしていきましょう。

学校 これまでに学んだことを使った学習が多くなります。考えたことを説明する機会が多くなります。難しいところがどこか確認しましょう。

家庭学習 やりたいことも多く、つつい学習は後回しに。家庭での学習の時間を一日の中でとれるように、無理のない計画を立てましょう。

学習について

国語...漢字(6年間で1006字習います。見直し、確認を。)

算数...小数や分数の四則計算(+・-・×・÷) 割合・百分率

e-ライブラリを活用して

インターネットにつながるパソコンやタブレットがあれば、学習ソフト「e-ライブラリ」を無料で利用できます。家でチャレンジしましょう。

**繰り返しのドリルで
力をつけよう！**

しっかり学習⇒ドリル(単元学習)

「小数・分数の計算」や「筆順」のドリルに、繰り返し取り組みましょう。

**困ったときは
解説を見よう！**

しっかり学習⇒解説教材

わからないところや忘れてしまったところは、解説教材で復習しましょう。

学習ページの開き方

いーらいふらり Q 検索

インターネットで「いーらいふらり」と検索して、自分の番号でログインしましょう。

学校でもらったIDカードを用意してね！

仲山ちゃん

元気の出る明るい学校づくり推進キャラクター 仲山ちゃん

平成29年度版

家庭学習の手引き

～ 学習、ゲームやスマホ、読書のバランスを大切に ～

よく学び よく遊び よく生きる

寒川町教育委員会

中学校 2年生

自分のめあてを持って学習する

1日の学習時間の目安
100分～今の自分に必要なことは？
何をしていくか考えよう。

生活

規則正しい生活が「自ら学ぶ力」
をつける環境を作っていきます。
「早寝早起き朝ごはん」の生活の
上に確かな学力が身につきます。

学校

授業では分かったことも、少し時
間が経つと不確かな部分が出て
きます。授業の見直しは、少しの
力で大きな成果につながります。家庭
学習学習する「場所」「内容」「時間」を
決めましょう。その中で自分に
合った学習のやり方を見つけて
自分の意志で取り組みましょう。

学習について

国語...立場や考えの違いを踏まえる 構成を工夫する

数学...文字式の四則計算 連立方程式 1次関数 ($y=ax+b$)

☆ 中学校で習う漢字は、小学校で習った漢字以外の常用漢字(1130字)です。

eライブラリを活用して

インターネットにつながるパソコンやタブレットがあれば、学習ソフト
「eライブラリ」を無料で利用できます。苦手な部分を確認しましょう。テーマ学習で
数学の苦手を克服！

しっかり学習→テーマ学習

数学の苦手な単元は、
どこからわからないのか
さかのぼって調べましょう。不確かな部分は
解説教材で確認！

しっかり学習→解説教材→解説/確認問題

解説教材の図版や例題を
見直して、不確かな部分を
解決しておきましょう。

学習ページの開き方

学校でもらった
IDカードを
用意してね！

仲山ちゃん

元気の出る明るい学校づくり推進キャラクター 仲山ちゃん

平成29年度版

家庭学習の手引き

学習・ゲーム・スマホ・読書 - 時間を決めて計画的に

よく学び よく遊び よく生きる

寒川町教育委員会

小学校 ～ 中学校

～ 学びの姿と学習内容 ～

1日の学習時間の目安
学年×10分+α

～ 学びのつながり ～

学習のやり方が分かる

自ら学ぶ姿勢を身につける

小学校 1・2年生 小学校 3・4年生 小学校 5・6年生
学ぶことの楽しさを知る 学ぼうとする 学んだことを使う中学校 1年生 中学校 2年生 中学校 3年生
やるべきことを見つける 自分のめあてを持つ 将来の目標を持つ

国語

日常の話す・聞く、書く、読むことが大事です。読書も含めて豊かな言語環境を作っていきましょう。

小学校1・2年生
事柄の順序を
話す・聞く・書く・読む(読書)
本や文章を読んで楽しん
だり、知識を得たりする小学校3・4年生
筋道を立てて
話す・聞く・書く・読む(読書)
目的に応じて、いろいろな
本や文章を読む小学校5・6年生
目的や意図に応じて
話す・聞く・書く・読む(読書)
いろいろな本や文章を読ん
で、それぞれのよさを比べる中学校1年生
構成を工夫して話す
構成を考えて書く(読書)
読書を通して物の見方や
考え方を広げる中学校2年生
立場や考えの違いを踏ま
えて話す
構成を工夫して書く(読書)
読書を生活に役立てようと
する中学校3年生
相手や場に応じて話す
論理の展開を工夫して書く(読書)
読書を通じて自己を向上さ
せようとする

算数

計算ができるようになってうれしいね。

小学1年生
・3桁までの数の表し方
・2桁までのたし算・ひき算小学2年生
・3桁までのたし算・ひき算
・かけ算九九
・かんたんな分数の表し方小学3年生
・4桁のたし算・ひき算
・3桁×2桁のかけ算
・商が2桁までのわり算
・小数、分数の仕組み小学4年生
・わる数が2桁のわり算
・小数の四則計算
・同分母分数のたし算・ひき算小学5年生
・小数のかけ算・わり算
・分数×整数、分数÷整数
・小数、分数の四則計算
・割合、百分率小学6年生
・分数のかけ算・わり算
・分数、小数の混合計算
・比例と反比例
・文字を使った式

数学

どのようにするか、意味と手順を理解しよう。

中学1年生
・正の数、負の数の四則計算
・文字を使った式の計算
・一元一次方程式
 $y=ax$ (比例)、
 $y=ax+b$ (反比例)の
表・式・グラフ中学2年生
・文字を使った式の四則計算
・(単項式と多項式)
・連立方程式
 $y=ax+b$ (一次関数)の
表・式・グラフ中学3年生
・式の展開と因数分解
・ $(-)(-)$ の展開公式など
・ $\sqrt{\quad}$ (平方根)を使った計算
 $y=ax^2$ (二次関数)の
表・式・グラフできる喜びを感じられるよう、毎日
漢字や計算の練習をしましょう。

仲山ちゃん

おうちの方へ

義務教育9年間の育ちの見通しです。主に国語と算数・数学について、それぞれの学年で学習する内容を
取り組みやすいものを中心にまとめました。継続して取り組むことが、少しの努力で大きな成果を生むことにつながります。

学校での取り組みについて … 今までも、これからも必要なこと

これまでの分析で述べてきましたが、これまで行ってきた教育実践は、今までも児童・生徒に必要な力の育成につながっていました。

これからについても、これまで培ってきた授業実践をもとに、児童・生徒の現状と課題を把握することで、よりよい教育につなげていくことが大事です。

児童・生徒の質問紙から、安心して取り組める学習環境が基盤としてあることも分かりました。教師と児童・生徒との信頼関係、生徒同士の人間関係について、日々の実践の中で築いてきたことが、質問紙の結果に表れています。

そのような学習の基盤を作っていくことと同時に、やはり、授業においてこれからの社会で必要な力をつけさせていくことが大事です。そのために町内全ての学校で校内研究を通して授業改善に向き合ってきました。その実践が結果として出てきていることは確かです。

国語の分析で学び子推進委員会での協議において出てきた書くことについての課題は、国の見解¹²と同じであり、学力・学習状況調査はそれをもとに作成されますので、そのような意味でも、校内研究の授業改善への取り組みは、時代のニーズと合致しているといえます。

これまでの教育委員会の取り組み、学校での取り組みについては、平成28年度の分析に詳細があり、今後も継続して取り組んでいきますが、ここでは、分析結果から今年度の重点について述べていきます。

12【書くことを含めたこれからの学びについて】「我が国の子供たちはどのような課題を抱えているのであろうか。

学力に関する調査においては、判断の根拠や理由を明確に示しながら自分の考えを述べたり、実験結果を分析して解釈・考察し説明したりすることなどについて課題が指摘されている。」「視覚的な情報と言葉との結びつきが希薄になり、知覚した情報の意味を吟味して読み解くことが少なくなっているのではないかと指摘もある。」

「文章で表された情報を的確に理解し、自分の考えの形成に生かしていけるようにすることは喫緊の課題である。」「2030年とその先の社会の在り方を見据えながら、学校教育を通じて子供たちに育てたい姿を描くとすれば、以下のような在り方が考えられる。」「理想を実現しようとする高い志や意欲を持って、主体的に学びに向かい、必要な情報を判断し、自ら知識を深めて個性や能力を伸ばし、人生を切り拓いていくことができること。」

「対話や議論を通じて、自分の考えを根拠とともに伝えるときにも、他者の考えを理解し、自分の考えを広げ深めたり、集団としての考えを発展させたり、他者への思いやりを持って多様な人々と協働したりしていくことができること。」「変化の激しい社会の中でも、感性を豊かに働かせながら、よりよい人生や社会の在り方を考え、試行錯誤しながら問題を発見・解決し、新たな価値を創造していくとともに、新たな問題の発見・解決につなげていくことができること。」「指導の目的が「何を知っているか」にとどまりがちであり、知っていることを活用して「何ができるようになるか」にまで発展していないのではないかと。」「子供たちが、学習内容を人生や社会の在り方と結びつけて深く理解し、これからの時代に求められる資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的に学び続けたりすることができるようにするためには、子供たちが「どのように学ぶか」という学びの質が重要になる。」（「次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ」より抜粋）

○ 基礎・基本の習得について

授業での学習内容の習得については、その授業でつけさせたい力をはっきりさせることが大事です。教えなくてはいけない部分を確実に押さえ、確認・共有し、また、授業の最後にはしっかりと振り返りを行い、「何を」「どのように学び」「何が分かり」「何ができるようになった」のかを自分自身で認識する力をつけていくことが大事です。

課題

これまでにでも取り組んできたが、より重点的に今後取り組みたいこと

- ・ 振り返りをしっかりすることで、その授業で身についたことを確認する
- ・ 「何を」「どのように」 振り返るかを明確にする
(学習内容の習得・習熟について大きく影響する)

授業内での学習内容の定着が難しい場合には、宿題等でその内容の確認をします。現在、小学校では宿題を習慣化していますので、そのよい習慣を中学校でも引継ぎ、学習内容の習得・習熟につなげていくことが大事です。

また、予習や復習も、授業の進み具合、理解度に影響します。教科書を読むことも予習です。予習と復習については、教師から具体的な内容を伝えることが必要です。

課題

これまでにでも取り組んできたが、より重点的に今後取り組みたいこと

- ・ 小学校で定着した宿題の習慣を中学校でも引き継ぐ
- ・ 家庭で予習や復習をする習慣を定着させる
(予習・復習については、「何を」「どのように」を具体的に児童・生徒に伝えていく)

○ 「主体的・対話的で深い学び」を意識した授業について

「主体的・対話的で深い学び」を目指す上で、その基盤となる活動について、児童・生徒質問紙の結果を見ていきます。

国語の授業で目的に応じて資料を読み、 自分の考えを話したり、書いたりしていますか → 当てはまる (%)	平成29年度	小学校	中学校
	寒川町	57.3	69.4
	県	67.8	62.3
	国	68.0	62.7

国語の授業で意見などを発表するとき、うまく 伝わるように話の組み立てを工夫していますか → 当てはまる (%)	平成29年度	小学校	中学校
	寒川町	51.5	62.9
	県	63.0	56.7
	国	63.4	55.6

国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの 理由が分かるように気を付けて書いていますか → 当てはまる (%)	平成29年度	小学校	中学校
	寒川町	70.3	73.5
	県	74.7	65.4
	国	74.8	65.9

算数・数学の問題の解き方が分からないときは、 諦めずにいろいろな方法を考えますか → 当てはまる (%)	平成29年度	小学校	中学校
	寒川町	76.7	78.3
	県	79.3	72.5
	国	81.1	73.5

算数・数学の授業で公式やきまりを習うとき、そ のわけを理解するようにしていますか → 当てはまる (%)	平成29年度	小学校	中学校
	寒川町	79.2	75.8
	県	82.0	71.6
	国	82.6	72.1

算数・数学の授業で問題の解き方や考え方が 分かるようにノートに書いていますか → 当てはまる (%)	平成29年度	小学校	中学校
	寒川町	81.1	86.1
	県	85.8	80.5
	国	86.0	81.3

「主体的・対話的で深い学び」を実現する上で、「目的に応じて必要なことを選択する」「それについて自分の考えを持つ」「みんなで話し合うために伝え方を考える」「共有したことを自分の考えと照らし合わせてまとめる」などの活動が必要です。これらの活動をより活発にするために各校の校内研究では授業改善の意識をしっかりと持つことが大事です。

この調査で分かることは限られていますが、その中でもはっきりしているところから授業改善に向けて取り組んでいくことはできます。そのような点でも、これまでも課題に挙がっている「書くこと」については、国語だけでなく、算数・数学についても同様に言えることです。この「書くこと」について意識をすることで、確実に授業での取り組みが変わっていきます。

またそれとともに日常の学習においても、児童・生徒それぞれのできることに、できるようになりたいことについて、教師の丁寧な見取りをもとに、一人一人に適切な言葉かけをすることが、児童・生徒の学習への意欲を引き出していくことにつながります。

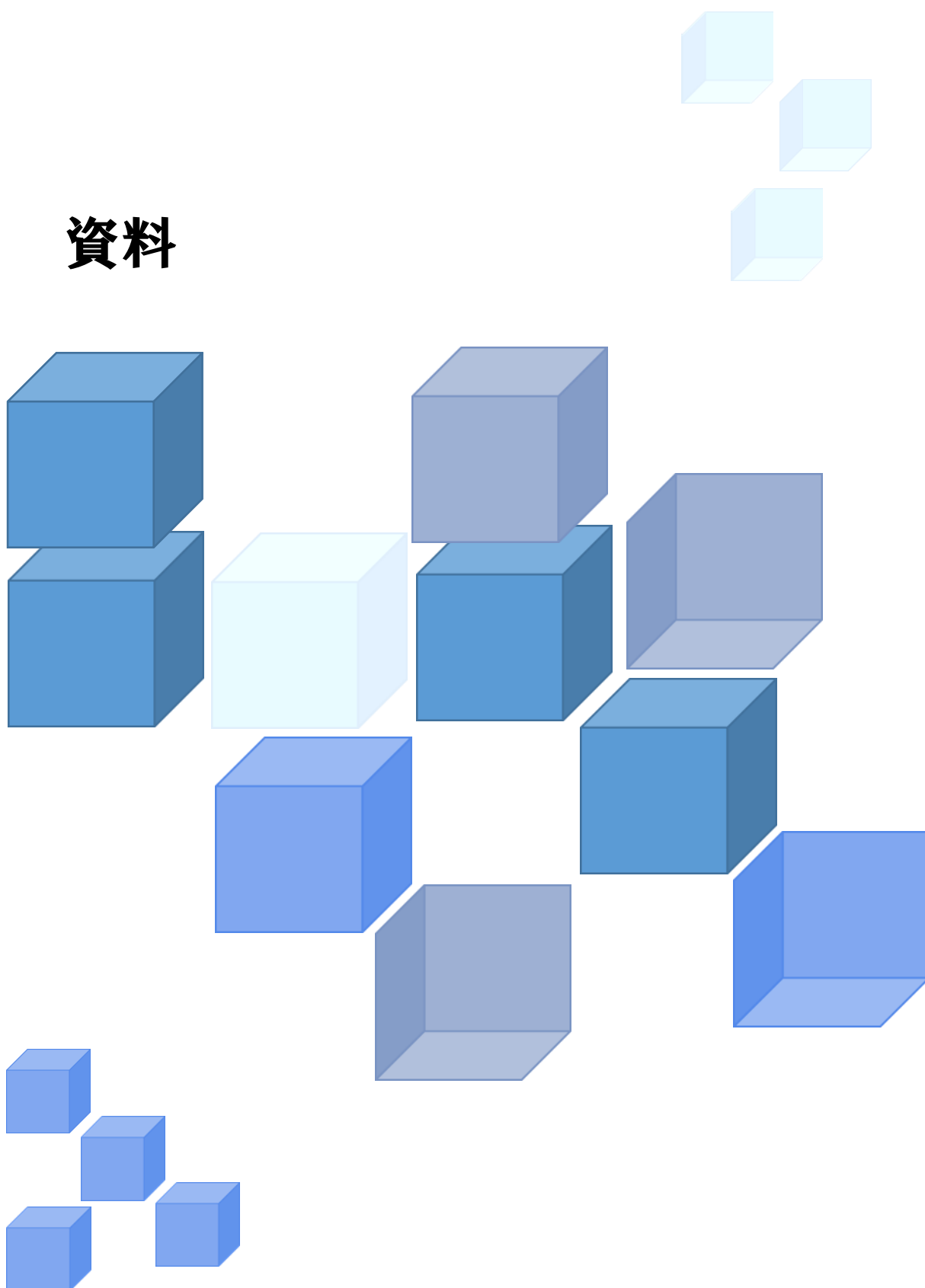
課題これまでにも取り組んできたが、より重点的に今後取り組みたいこと**目的や意図に応じて必要な情報を取り出して書くこと****集めた情報を根拠にして自分の考えや意見を書くこと**

「書くこと」は、大人にとっても難しいことです。自分が伝えたいことをぴったりと表現できるようになるには練習が必要です。指導をする教師以上に子どもたちはできるようになりたいと思っています。しかしながら、できるようになりたい、書けるようになりたいというイメージは、自分が書いている姿を映像として見ているように、大まかな全体像としての捉えになっていることがあります。教師としては、具体的に何を書くか、何を見て書くか、どこに気をつけて書くか、何のために書くか、どのように書くか等、具体的な表現のイメージを伝えていくことが大事です。児童・生徒の実態に応じて、一つ一つを適切に指導することで、確実に学んだとおりに書けるようになります。その成果が教師がイメージするものと、また、児童・生徒がイメージするものと同じであったなら、教師としてこれほどうれしいことはありません。私たちは児童・生徒の成長を目指して、日々の教育活動に取り組んでいます。

ここで大事にしていきたいことは、教師が児童・生徒になってほしい姿を具体的にイメージすることです。「どのように書いてほしいか」については先述した課題にあります。教師が学年や児童・生徒の実態を適切に把握し、それをもとにつけさせたい力を具体的に持つことが、児童・生徒の学びになります。このことは、「書くこと」だけでなく、授業全般にも当てはまります。つまり、教師が児童・生徒につけさせたい力を具体的に持つことが授業改善につながります。

つけさせたい力は、学習指導要領や校内研究のテーマにあります。今現在行っている実践をどのような視点で見るかで、その意味は大きく変わります。このような成長を見据えたイメージの先に、児童・生徒の学びが存在します。学びの先の成長を願い続けることが、寒川町の教育をこれからも支えていくのです。

資料



【調査の概要】

調査の概要

(1) 調査の目的

- ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る
- ◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる
- ◇そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 調査の対象

町内小学校第6学年に在籍する児童

町内中学校第3学年に在籍する生徒

(3) 児童生徒に対する調査内容

①教科に関する調査（国語、算数・数学）

- ・主として「知識」に関する問題
- ・主として「活用」に関する問題

②生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

- ・児童生徒に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査
- ・学校に対する調査
指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

(4) 調査の方式

悉皆調査（参考：平成19～21年度悉皆、22・24年度抽出、25年度以降悉皆）

(5) 調査日・調査内容

平成29年4月18日（火）

【小学校】国語A算数A（各20分）・国語B（40分）・
算数B（40分）・児童質問紙（20分程度）

【中学校】国語A（45分）・国語B（45分）・数学A（45分）・
数学B（45分）・生徒質問紙（20分程度）

【調査結果】 小学校 国語

平成29年度全国学力・学習状況調査:小学校調査

調査結果概況 【国語A:主として知識】

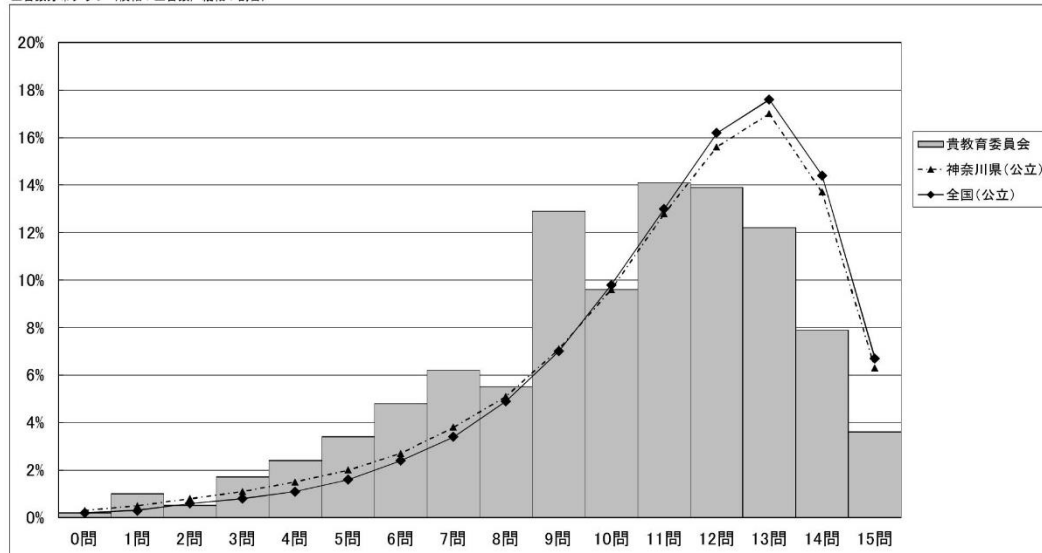
寒川町教育委員会—児童

・以下の集計値／グラフは、4月18日に実施した調査の結果を、児童を対象として集計した値である。

※参考値として、在籍児童数、調査対象児童数、当日実施児童数、後日実施児童数、実施児童総数を示す。
 ※在籍児童数及び調査対象児童数は、学校から回答のあった児童の人数を集計した値。
 ※当日実施児童数は、4月18日に実施した調査（国語A）の解答用紙を提出した児童数。
 ※後日実施児童数は、4月19日以降5月2日までに実施した調査（国語A）の解答用紙を提出した児童数。
 ※実施児童総数は、当日実施児童数と後日実施児童数を合計した値。
 ※平均正答率は、文部科学省の発表に基づき、全国は小数第1位まで、神奈川県及び寒川町は小数点以下を四捨五入した結果を示している。

	児童数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
寒川町教育委員会	417	10.1 / 15	67	11.0	3.1
神奈川県（公立）	70,674	11.0 / 15	73	12.0	3.0
全国（公立）	999,683	11.2 / 15	74.8	12.0	2.8

正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：割合）



正答数集計値 (左：児童数 右：割合(%))		
0問	1	0.2
1問	4	1.0
2問	2	0.5
3問	7	1.7
4問	10	2.4
5問	14	3.4
6問	20	4.8
7問	26	6.2
8問	23	5.5
9問	54	12.9
10問	40	9.6
11問	59	14.1
12問	58	13.9
13問	51	12.2
14問	33	7.9
15問	15	3.6

平成29年度全国学力・学習状況調査:小学校調査

調査結果概況 【国語B:主として活用】

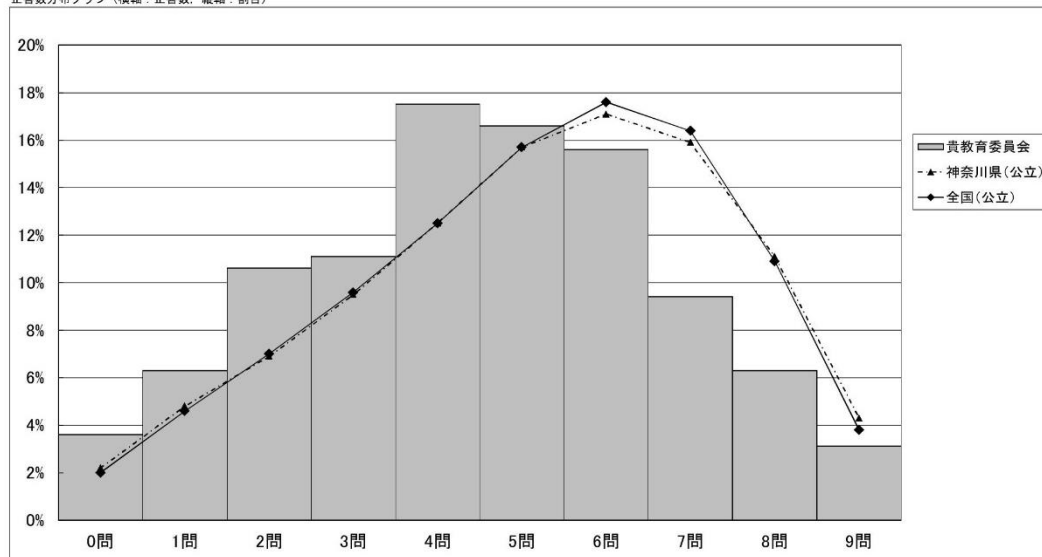
寒川町教育委員会—児童

・以下の集計値／グラフは、4月18日に実施した調査の結果を、児童を対象として集計した値である。

※参考値として、在籍児童数、調査対象児童数、当日実施児童数、後日実施児童数、実施児童総数を示す。
 ※在籍児童数及び調査対象児童数は、学校から回答のあった児童の人数を集計した値。
 ※当日実施児童数は、4月18日に実施した調査（国語B）の解答用紙を提出した児童数。
 ※後日実施児童数は、4月19日以降5月2日までに実施した調査（国語B）の解答用紙を提出した児童数。
 ※実施児童総数は、当日実施児童数と後日実施児童数を合計した値。
 ※平均正答率は、文部科学省の発表に基づき、全国は小数第1位まで、神奈川県及び寒川町は小数点以下を四捨五入した結果を示している。

	児童数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
寒川町教育委員会	416	4.5 / 9	50	5.0	2.2
神奈川県（公立）	70,672	5.2 / 9	57	5.0	2.2
全国（公立）	999,498	5.2 / 9	57.5	5.0	2.2

正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：割合）



正答数集計値 (左：児童数 右：割合(%))		
0問	15	3.6
1問	26	6.3
2問	44	10.6
3問	46	11.1
4問	73	17.5
5問	69	16.6
6問	65	15.6
7問	39	9.4
8問	26	6.3
9問	13	3.1

＊平成29年度より平均正答率は、文部科学省の発表に基づき、寒川町は小数点以下を四捨五入した結果を示しています。（全国は小数第1位まで、都道府県及び市町村は小数点以下を四捨五入した結果の公表となっています。）

【調査結果】 小学校 算数

平成29年度全国学力・学習状況調査(小学校)調査

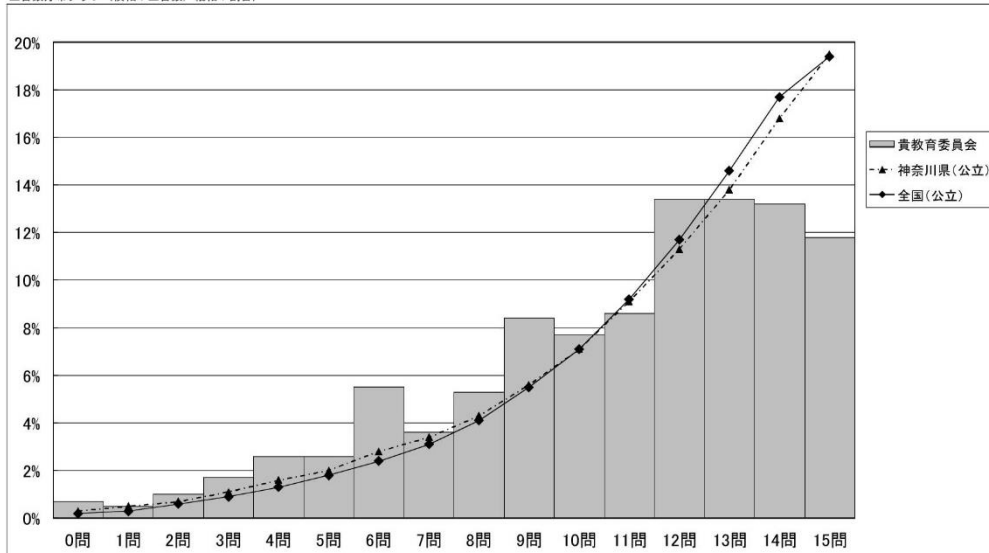
調査結果概況 [算数A：主として知識]

寒川町教育委員会－児童

・以下の集計値／グラフは、4月18日に実施した調査の結果を、児童を対象として集計した値である。
 ※参考値として、在籍児童数、調査対象児童数、当日実施児童数、後日実施児童数、実施児童総数を示す。
 ※在籍児童数及び調査対象児童数は、学校から回答のあった児童の人数を集計した値。
 ※当日実施児童数は、4月18日に実施した調査（国語A）の解答用紙を提出した児童数。
 ※後日実施児童数は、4月19日以降5月2日までに実施した調査（国語A）の解答用紙を提出した児童数。
 ※実施児童総数は、当日実施児童数と後日実施児童数を合計した値。
 ※平均正答率は、文部科学省の発表に基づき、全国は小数第1位まで、神奈川県及び寒川町は小数点以下を四捨五入した結果を示している。

	児童数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
寒川町教育委員会	417	10.8 / 15	72	12.0	3.5
神奈川県（公立）	70,683	11.6 / 15	77	13.0	3.2
全国（公立）	999,723	11.8 / 15	78.6	13.0	3.1

正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：割合）



正答数集計値 (左：児童数 右：割合(%))		
0問	3	0.7
1問	2	0.5
2問	4	1.0
3問	7	1.7
4問	11	2.6
5問	11	2.6
6問	23	5.5
7問	15	3.6
8問	22	5.3
9問	35	8.4
10問	32	7.7
11問	36	8.6
12問	56	13.4
13問	56	13.4
14問	55	13.2
15問	49	11.8

平成29年度全国学力・学習状況調査(小学校)調査

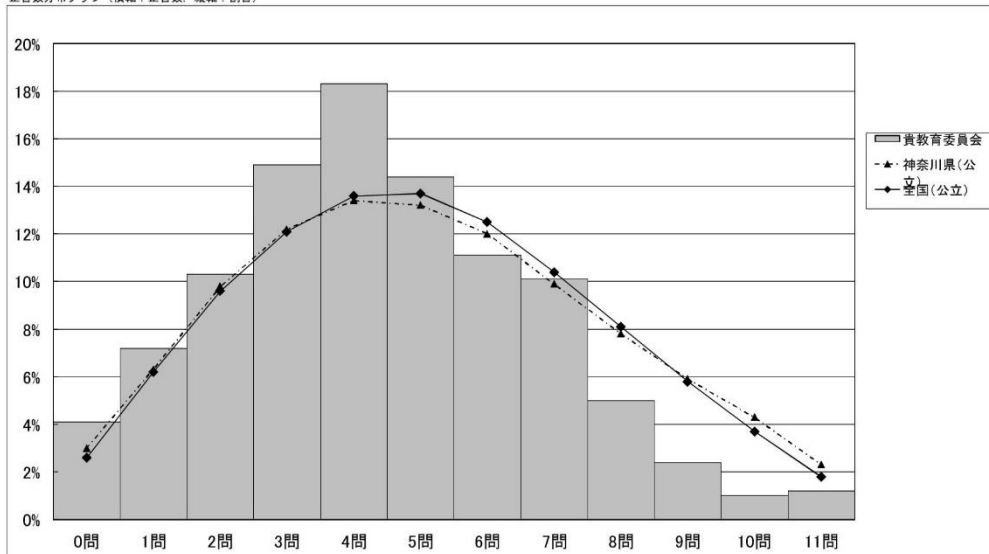
調査結果概況 [算数B：主として活用]

寒川町教育委員会－児童

・以下の集計値／グラフは、4月18日に実施した調査の結果を、児童を対象として集計した値である。
 ※参考値として、在籍児童数、調査対象児童数、当日実施児童数、後日実施児童数、実施児童総数を示す。
 ※在籍児童数及び調査対象児童数は、学校から回答のあった児童の人数を集計した値。
 ※当日実施児童数は、4月18日に実施した調査（国語A）の解答用紙を提出した児童数。
 ※後日実施児童数は、4月19日以降5月2日までに実施した調査（国語A）の解答用紙を提出した児童数。
 ※実施児童総数は、当日実施児童数と後日実施児童数を合計した値。
 ※平均正答率は、文部科学省の発表に基づき、全国は小数第1位まで、神奈川県及び寒川町は小数点以下を四捨五入した結果を示している。

	児童数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
寒川町教育委員会	416	4.4 / 11	40	4.0	2.4
神奈川県（公立）	70,666	5.1 / 11	46	5.0	2.7
全国（公立）	999,451	5.1 / 11	45.9	5.0	2.6

正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：割合）



正答数集計値 (左：児童数 右：割合(%))		
0問	17	4.1
1問	30	7.2
2問	43	10.3
3問	62	14.9
4問	76	18.3
5問	60	14.4
6問	46	11.1
7問	42	10.1
8問	21	5.0
9問	10	2.4
10問	4	1.0
11問	5	1.2

＊平成29年度より平均正答率は、文部科学省の発表に基づき、寒川町は小数点以下を四捨五入した結果を示しています。（全国は小数第1位まで、都道府県及び市町村は小数点以下を四捨五入した結果の公表となっています。）

【調査結果】 中学校 国語

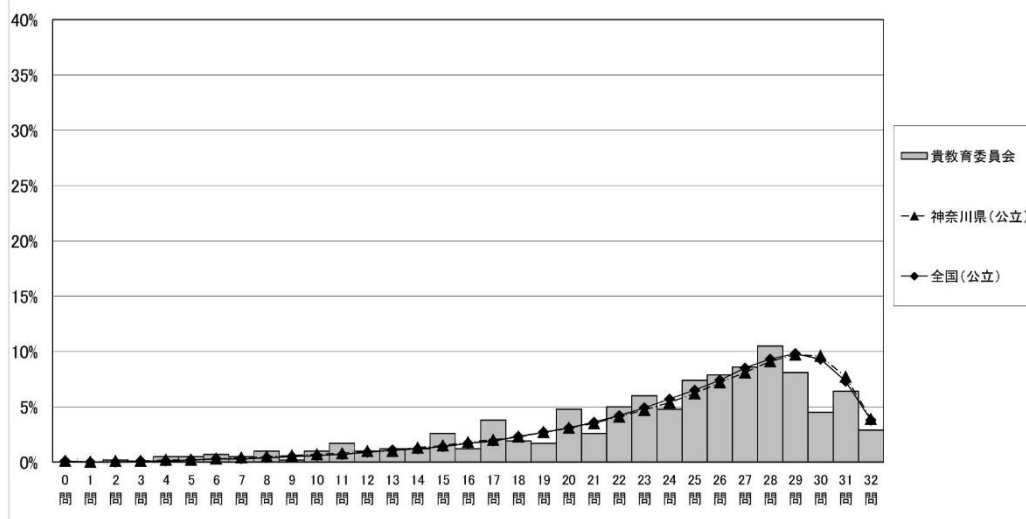
平成29年度全国学力・学習状況調査 中学校調査
調査結果概況 【国語A：主として知識】

寒川町教育委員会一生徒

・以下の集計値／グラフは、4月18日に実施した調査の結果を、生徒を対象として集計した値である。
 ※参考値として、在籍生徒数、調査対象生徒数、当日実施生徒数、後日実施生徒数、実施生徒総数を示す。
 ※在籍生徒数及び調査対象生徒数は、学校から回答のあった生徒の人数を集計した値。
 ※当日実施生徒数は、4月18日に実施した調査（国語A）の解答用紙を提出した生徒数。
 ※後日実施生徒数は、4月19日以降5月2日までに実施した調査（国語A）の解答用紙を提出した生徒数。
 ※実施生徒総数は、当日実施生徒数と後日実施生徒数を合計した値。
 ※平均正答率は、文部科学省の発表に基づき、全国は小数第1位まで、神奈川県及び寒川町は小数点以下を四捨五入した結果を示している。

	生徒数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
寒川町教育委員会	420	23.7 / 32	74	25.0	6.2
神奈川県（公立）	64,742	24.7 / 32	77	26.0	5.9
全国（公立）	982,511	24.8 / 32	77.4	26.0	5.7

正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：割合）



正答数集計値 (左：生徒数 右：割合(%))		
0問	0	0.0
1問	0	0.0
2問	1	0.2
3問	0	0.0
4問	2	0.5
5問	2	0.5
6問	3	0.7
7問	2	0.5
8問	4	1.0
9問	1	0.2
10問	4	1.0
11問	7	1.7
12問	4	1.0
13問	5	1.2
14問	5	1.2
15問	11	2.6
16問	5	1.2
17問	16	3.8
18問	8	1.9
19問	7	1.7
20問	20	4.8
21問	11	2.6
22問	21	5.0
23問	25	6.0
24問	20	4.8
25問	31	7.4
26問	33	7.9
27問	36	8.6
28問	44	10.5
29問	34	8.1
30問	19	4.5
31問	27	6.4
32問	12	2.9

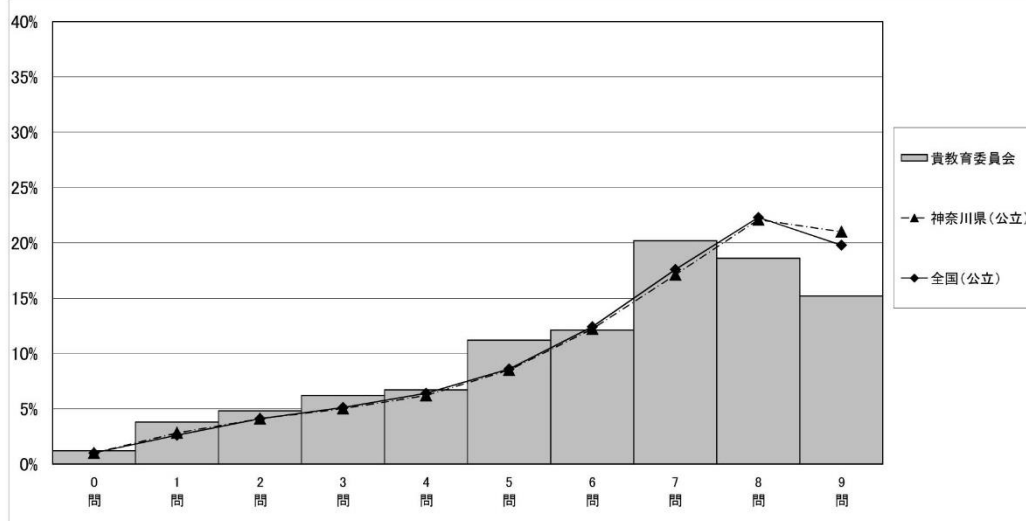
平成29年度全国学力・学習状況調査 中学校調査
調査結果概況 【国語B：主として活用】

寒川町教育委員会一生徒

・以下の集計値／グラフは、4月18日に実施した調査の結果を、生徒を対象として集計した値である。
 ※参考値として、在籍生徒数、調査対象生徒数、当日実施生徒数、後日実施生徒数、実施生徒総数を示す。
 ※在籍生徒数及び調査対象生徒数は、学校から回答のあった生徒の人数を集計した値。
 ※当日実施生徒数は、4月18日に実施した調査（国語B）の解答用紙を提出した生徒数。
 ※後日実施生徒数は、4月19日以降5月2日までに実施した調査（国語B）の解答用紙を提出した生徒数。
 ※実施生徒総数は、当日実施生徒数と後日実施生徒数を合計した値。
 ※平均正答率は、文部科学省の発表に基づき、全国は小数第1位まで、神奈川県及び寒川町は小数点以下を四捨五入した結果を示している。

	生徒数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
寒川町教育委員会	420	6.1 / 9	68	7.0	2.3
神奈川県（公立）	64,762	6.5 / 9	72	7.0	2.3
全国（公立）	982,619	6.5 / 9	72.2	7.0	2.3

正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：割合）



正答数集計値 (左：生徒数 右：割合(%))		
0問	5	1.2
1問	16	3.8
2問	20	4.8
3問	26	6.2
4問	28	6.7
5問	47	11.2
6問	51	12.1
7問	85	20.2
8問	78	18.6
9問	64	15.2

* 平成29年度より平均正答率は、文部科学省の発表に基づき、寒川町は小数点以下を四捨五入した結果を示しています。（全国は小数第1位まで、都道府県及び市町村は小数点以下を四捨五入した結果の公表となっています。）

【調査結果】 中学校 数学

平成29年度全国学力・学習状況調査 中学校調査

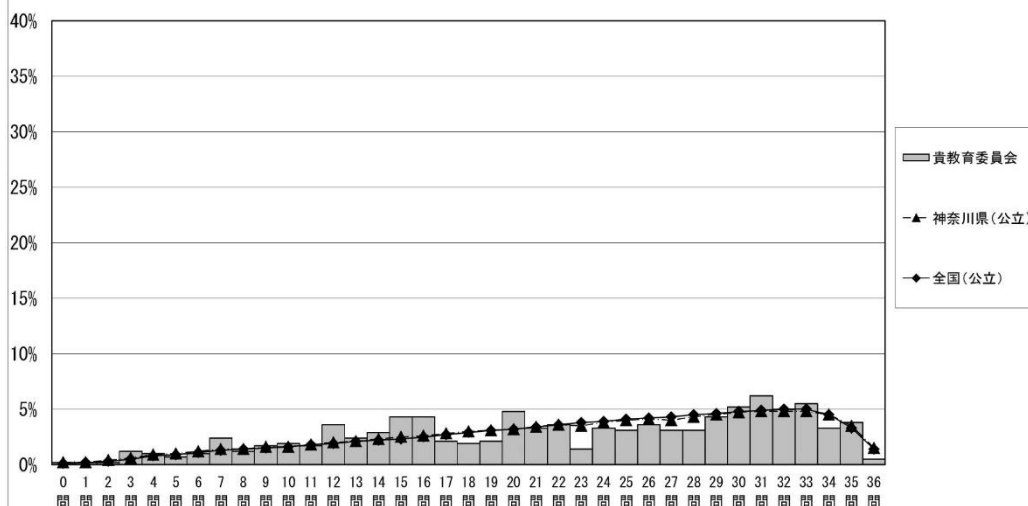
調査結果概況 【数学A：主として知識】

寒川町教育委員会一生徒

・以下の集計値／グラフは、4月18日に実施した調査の結果を、生徒を対象として集計した値である。
 ※参考値として、在籍生徒数、調査対象生徒数、当日実施生徒数、後日実施生徒数、実施生徒総数を示す。
 ※在籍生徒数及び調査対象生徒数は、学校から回答のあった生徒の人数を集計した値。
 ※当日実施生徒数は、4月18日に実施した調査（国語A）の解答用紙を提出した生徒数。
 ※後日実施生徒数は、4月19日以降5月2日までに実施した調査（国語A）の解答用紙を提出した生徒数。
 ※実施生徒総数は、当日実施生徒数と後日実施生徒数を合計した値。
 ※平均正答率は、文部科学省の発表に基づき、全国は小数第1位まで、神奈川県及び寒川町は小数点以下を四捨五入した結果を示している。

	生徒数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
寒川町教育委員会	420	22.3 / 36	62	24.0	8.9
神奈川県（公立）	64,776	23.0 / 36	64	24.0	8.7
全国（公立）	982,811	23.3 / 36	64.6	25.0	8.5

正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：割合）



正答数集計値 (左：生徒数 右：割合(%))		
0問	1	0.2
1問	1	0.2
2問	1	0.2
3問	5	1.2
4問	4	1.0
5問	3	0.7
6問	4	1.0
7問	10	2.4
8問	5	1.2
9問	7	1.7
10問	8	1.9
11問	7	1.7
12問	15	3.6
13問	10	2.4
14問	12	2.9
15問	18	4.3
16問	18	4.3
17問	9	2.1
18問	8	1.9
19問	9	2.1
20問	20	4.8
21問	14	3.3
22問	15	3.6
23問	6	1.4
24問	14	3.3
25問	13	3.1
26問	15	3.6
27問	13	3.1
28問	13	3.1
29問	18	4.3
30問	22	5.2
31問	26	6.2
32問	21	5.0
33問	23	5.5
34問	14	3.3
35問	16	3.8
36問	2	0.5

平成29年度全国学力・学習状況調査 中学校調査

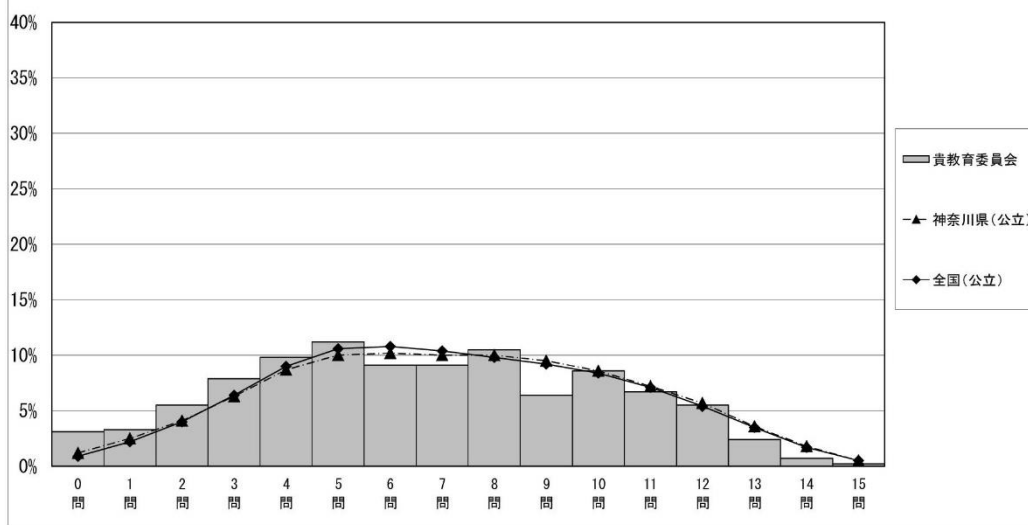
調査結果概況 【数学B：主として活用】

寒川町教育委員会一生徒

・以下の集計値／グラフは、4月18日に実施した調査の結果を、生徒を対象として集計した値である。
 ※参考値として、在籍生徒数、調査対象生徒数、当日実施生徒数、後日実施生徒数、実施生徒総数を示す。
 ※在籍生徒数及び調査対象生徒数は、学校から回答のあった生徒の人数を集計した値。
 ※当日実施生徒数は、4月18日に実施した調査（国語A）の解答用紙を提出した生徒数。
 ※後日実施生徒数は、4月19日以降5月2日までに実施した調査（国語A）の解答用紙を提出した生徒数。
 ※実施生徒総数は、当日実施生徒数と後日実施生徒数を合計した値。
 ※平均正答率は、文部科学省の発表に基づき、全国は小数第1位まで、神奈川県及び寒川町は小数点以下を四捨五入した結果を示している。

	生徒数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
寒川町教育委員会	419	6.6 / 15	44	7.0	3.4
神奈川県（公立）	64,779	7.2 / 15	48	7.0	3.3
全国（公立）	982,786	7.2 / 15	48.1	7.0	3.3

正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：割合）



正答数集計値 (左：生徒数 右：割合(%))		
0問	13	3.1
1問	14	3.3
2問	23	5.5
3問	33	7.9
4問	41	9.8
5問	47	11.2
6問	38	9.1
7問	38	9.1
8問	44	10.5
9問	27	6.4
10問	36	8.6
11問	28	6.7
12問	23	5.5
13問	10	2.4
14問	3	0.7
15問	1	0.2

*平成29年度より平均正答率は、文部科学省の発表に基づき、寒川町は小数点以下を四捨五入した結果を示しています。（全国は小数第1位まで、都道府県及び市町村は小数点以下を四捨五入した結果の公表となっています。）

